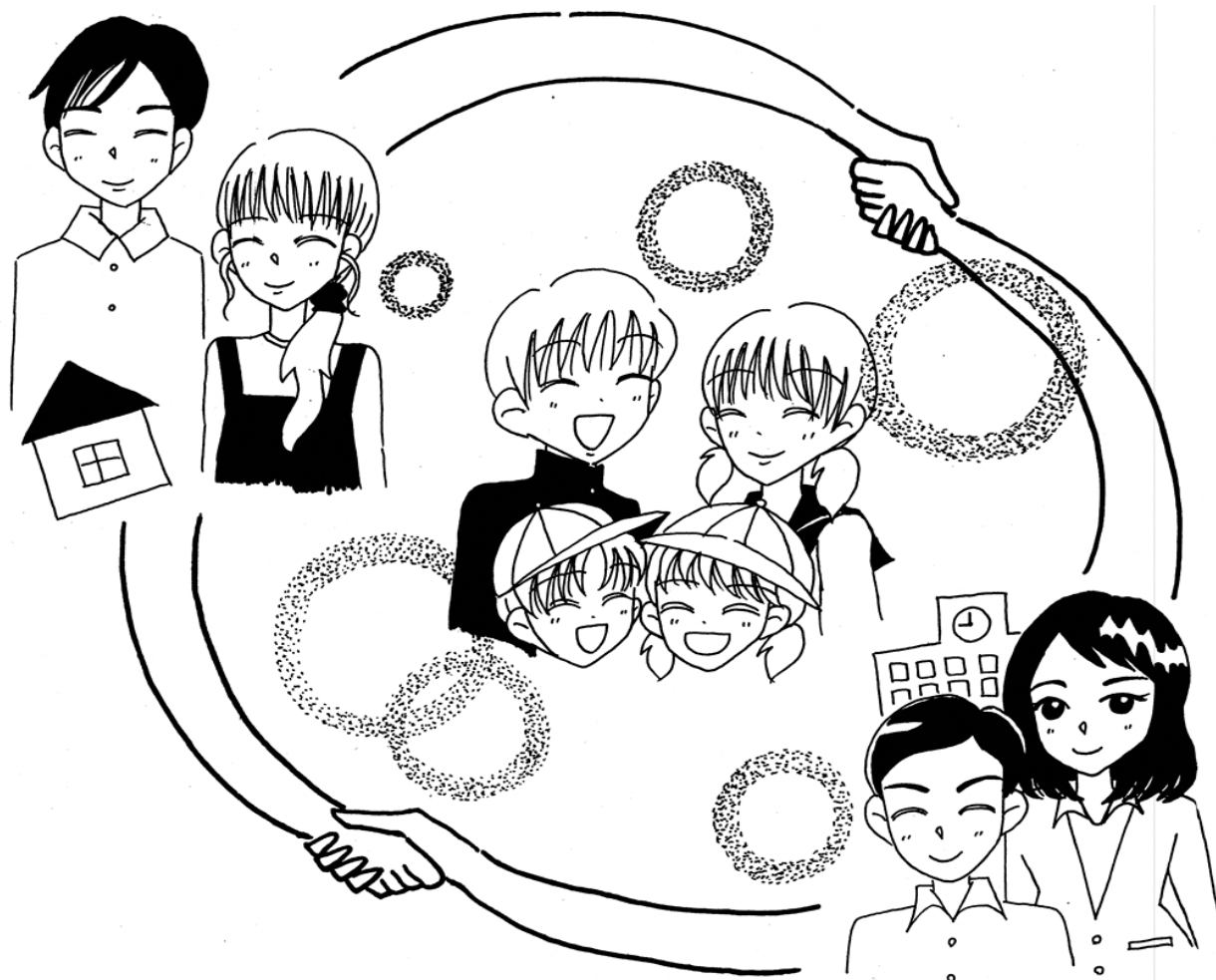


特別支援学級担任のための
ハンドブック



令和4年3月
千葉市養護教育センター

目 次

	ページ
特別支援学級担任として	1
1 まず、実態把握を	2
(1) 実態把握の観点	
(2) 主な発達検査等	
2 保護者との連携	3
3 特別支援学級担任としての年間スケジュール	5
一人一人の教育的ニーズに応じた教育課程	
1 特別支援学級の教育課程	9
2 特別の教育課程	10
(1) 日課表の組み方	11
(2) 年間の行事をポイントに	13
3 交流及び共同学習	17
(1) 目的と形態	
(2) 指導上のポイント	
(3) 内容例	
4 進路学習	19
諸表簿・資料編	
1 通知表（個別の指導計画）・指導要録	
(1) 通知表（個別の指導計画）	23
(2) 指導要録	28
2 教科用図書	29
(1) 選択できる教科用図書	
(2) 教科用図書の選択のしかた	
3 特別支援教育就学奨励費・療育手帳・障害福祉サービス	30
(1) 特別支援教育就学奨励費	
(2) 療育手帳	31
(3) 障害福祉サービス・受給者証	
4 就学支援委員会の上程資料の書き方	32

5	個別の教育支援計画	33
	(1) 個別の教育支援計画と他の支援計画との関係	
	(2) 個別の教育支援計画の作成手順	
	(3) 個別の教育支援計画の内容	
	(4) 個別の教育支援計画作成上の留意点	
6	特別支援学級参観・試行通学	35
	(1) 学級参観	
	(2) 試行通学	

<資料>

・連絡帳	小学校編	36
・連絡帳	中学校編	37
・上程資料		38
・個別の教育支援計画		39
・校長先生・教頭先生にお願いしたいこと		41

特別支援学級担任として

特別支援教育は、障害等のある一人一人の教育的ニーズを的確に把握し、必要となる教育的支援を行う、「個に応じた教育」です。

特別支援学級には、様々な特性がある子供がいます。個々の特性を把握・理解して、適切な支援をすることが重要です。家庭と学校の連携を密にし、協力して子供がよりよく学校生活を送ることができるようにしましょう。



特別支援学級から情報を発信することも重要です。
できることを自分から始めてみましょう！！

◇校内での理解を深めましょう◇

- 学級だよりや週予定表を、全職員に配付したり、掲示したりしましょう。
- 知っておいてもらいたいこと(特に児童生徒については)、打合せ等で伝えましょう。
- 学年主任や交流学級の担任に、学習内容や学習に関わるグループ編成、教材注文等について、日頃から意識して確認しましょう。
- 集会や行事で、学習の成果を発表してみましょう。
- 学習の様子を写真で紹介したり、図工や美術、書写などの作品、作文などを掲示したりして、学級の様子を紹介しましょう。
- 校長先生や教頭先生に本ハンドブックを渡しましょう。特に【P41「校長先生・教頭先生にお願いしたいこと」】を読んでもらいましょう。

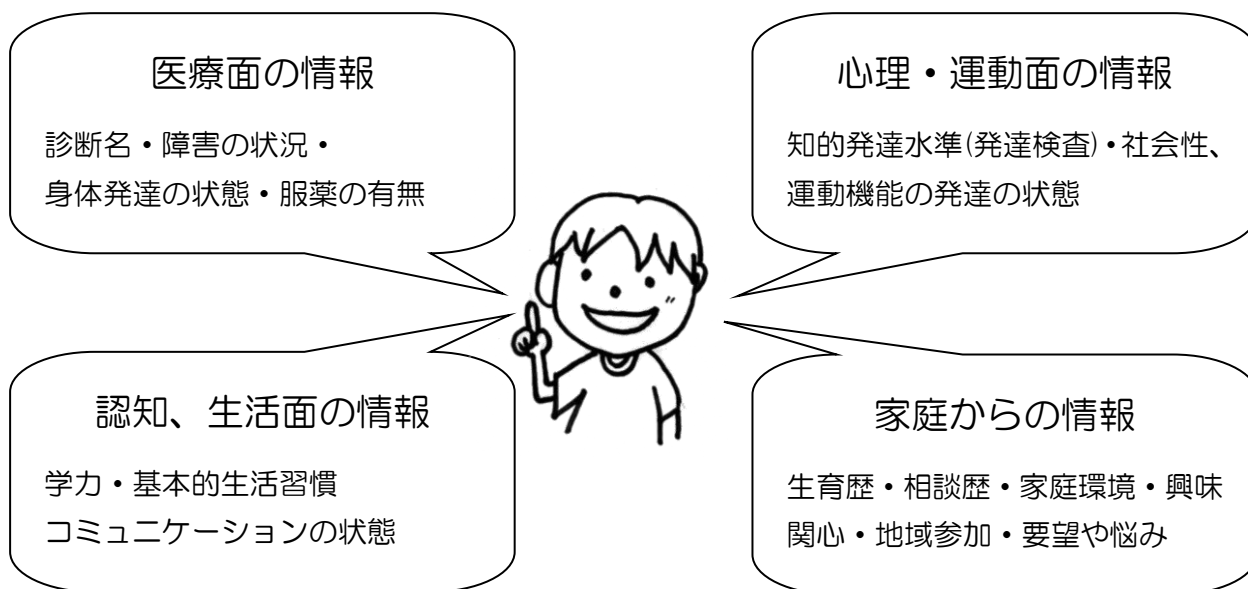
◇チームワークを大切にしましょう◇

- 複数担任の場合は、担任同士がアイデアを出し合って、教材や授業の工夫をしましょう。また、日々の子供の様子について、常に共通理解を図りましょう。
- 音楽や理科、家庭科などの学習計画を立案する時には、専科の先生に相談し、子供の実態に合わせた内容にアレンジして授業をしましょう。
- 特別支援学級担任以外の先生にも、特別支援学級の授業を受け持ってもらえるように、協力を依頼してみましょう。
- 担任が出張等で教室をあけなければならない場合、管理職や教務主任、養護教諭の協力を得るなどの、サポート体制を確認しておきましょう。
- 担任が一人の場合は、様々な点において、校内職員への相談はもちろん、前担任や近隣の特別支援学級担任に聞くようにしましょう。

1 まず、実態把握を

(1) 実態把握の観点

家庭や医療からの適切な情報を収集するとともに、児童生徒とのふれあいを通して、もっている力や障害特性等の理解に努めましょう。これらの理解をもとに、個に応じた目標、指導内容、指導方法などを検討します。



(2) 主な発達検査等

心理発達検査は、児童生徒の発達の状態を客観的に把握するためのものです。検査結果を読みとることで、発達のバランスや課題を把握することができます。

検査名	適用年齢 所要時間の目安	内容
S-M 社会生活能力検査	乳幼児～中学生 20分	社会生活能力を、「自立と社会参加に必要な生活への適応能力」と定義し、子供の日頃の様子から、社会生活能力の発達を捉える検査。知的障害や発達障害のある子供達への指導の手がかりが得られる。回答結果をもとに、社会生活年齢（SA）と社会生活指数（SQ）が算出できる。
田中ビネー 知能検査V	0才～成人 1～2時間	年齢段階ごとに、言語・動作・記憶・数量・知覚・推理・構成などの内容を配置し、知的発達水準を測定する。精神年齢（MA）と知能指数（IQ）で示される。
WISC-Ⅲ	5才～ 16才11ヵ月 60分～70分	全知能指数（FIQ）と、言語性知能指数（VIQ）と動作性知能指数（PIQ）に加えて、言語理解、知覚統合、注意記憶、処理速度を測定できる知能検査である。
WISC-Ⅳ ※検査者は、公認心理師等の資格が必要	5才～ 16才11ヵ月 60分～70分	全知能指数(FSIQ)に加えて、言語理解（VCI）、知覚推理（PRI）、ワーキングメモリ（WMI）、処理速度（PSI）を測定できる知能検査で、認知の特性を把握できる。
遠城寺式乳幼児 分析的発達検査	0才～4才8ヶ月 15分	移動運動、手の運動、基本的習慣、対人関係、発語、言語理解などの6領域の発達状況を把握する。学齢児童では発達の重度な遅れがある場合に使用するとよい。

2 保護者との連携

子供の日々のがんばりや、できたことを伝えましょう。保護者の話をしっかりと傾聴し、一緒に喜んだり悩んだりできる関係が大切です。子供の特性を一番よく分かっているのは保護者です。「保護者から学ぶ」姿勢が大切です。

《連携の方法》

連絡帳

毎日の家庭での様子や学校での出来事を伝え合います。
学級の実態に応じて書式を考えます。

○家庭から

- ・家庭生活での様子
- ・健康状態
- ・うれしかったこと
- ・困っていること
- ・悩んでいること など

○学校から

- ・その日の具体的な学習や生活の様子
- ・保護者への助言や励まし、共感
- ・持ち物や明日の予定（学習の一環として子供が書き込む場合もある）



詳しくはP36・37へ

学級・学年便り

学級の様子や取組を知らせることで、学級や学校生活の様子を伝えることができます。

○各月の学習や行事予定、児童生徒の様子などの紹介を中心に、写真やイラストなどを活用し、視覚的に見やすい工夫をしましょう。

○学級の様子や、行事での子供の感想、交流学習の様子等、内容を工夫しましょう。

○週1回の発行(週予定)で、保護者にも次週の見通しをもってもらうとよいです。また、行事等の時には臨時的に発行するなど、子供の様子を積極的に伝えていきましょう。

個人面談・家庭訪問（地域訪問）

○個人面談

- ・保護者の願いや話をよく聞きます。
- ・事前に伝えたいこと、聞きたいこと、話し合いたいことなどを明確にしておきます。
- ・具体的な事実に基づき（児童生徒の作品や行動の記録など）、よさや成長したことを伝えます。また、「何をどのようがんばればよいのか」など具体的な努力目標を示します。
- ・個別の指導計画や個別の教育支援計画をもとに、児童生徒の生活や学習について話し合い、今後の具体的な教育方針について共通理解を図ります。
- ・卒業年度の場合は、進路についても話し合うとよいでしょう。

○家庭訪問（地域訪問）

- ・登下校の経路確認をします。
- ・自宅付近の環境や児童生徒の家庭での過ごし方を知ります。

授業参観・懇談会

学校の教育方針や学年・学級経営を理解してもらうと同時に保護者の声を聞きます。

○授業参観

- ・さまざまな授業形態を工夫して、学習の様子を参観してもらいます。
- ・年に数回ある場合は、それぞれ違う教科の学習を展開し、より多くの授業の様子を知ってもらいましょう。

○懇談会

- ・年度当初の場合は、学校教育目標・学級経営方針を説明します。
- ・年間の主な行事予定を伝え、理解を得られるようにします。
- ・学校、学級担任に対する保護者の考えや要望を聞きます。
- ・学校生活の様子、家庭学習の進め方、長期休業中の生活、身近な子育ての事柄、放課後の過ごし方、医療機関など共通のテーマを持って話し合い、情報交換を図ります。必要な資料等を作成し提供します。
- ・特別支援教育就学奨励費についての説明と書類作成の依頼をします。

☆資料については個人に関するものは公開を避け、個人名を出さないなどの配慮が必要です。

中学校への進学を控えた保護者の学校・学級参観（中学校で実施の場合）

学校の環境や、教育内容・方法等について説明します。

○中学校の学習や生活について説明します。

- ・教科指導 ・日課表 ・登下校について ・通学範囲について
- ・言語面や社会性について ・学校行事や合同行事への参加について
- ・交流及び共同学習について ・卒業後の進路について

○保護者からの質問には、丁寧に答えましょう。



3 特別支援学級担任としての年間スケジュール

〈小学校〉

月	行事	特別支援学級担任のおもな業務内容（例）
4月	始業式 入学式	<input type="checkbox"/> 学級開きの準備→複数担任の場合、担当学級・学年等の決定 <input type="checkbox"/> 教育課程の編成（週時程表、年間指導計画等）＊P 1 1 参照 <input type="checkbox"/> 交流及び共同学習の年間計画作成・打合せ・職員会議提案 →どの学級と、どの教科や特別活動を、どのように交流するかを、交流学級の担任等と共通理解（近隣特別支援学級との交流計画も必要） ＊ハンドブック 「交流及び共同学習編」参照 <input type="checkbox"/> 配付する教科書の確認→個人台帳に記録 <input type="checkbox"/> 年度初めの配付物を確認 →学級だより、S-M 社会生活能力検査、個別の指導計画作成のための資料（保護者の願い記入用紙） <input type="checkbox"/> 新入生の入学式計画・準備・予行 →新入生と会場の下見、座席の確認、返事の練習 <input type="checkbox"/> 学級経営案・学級懇談会資料作成 <input type="checkbox"/> 前期 個別の指導計画作成 <input type="checkbox"/> 個別の教育支援計画作成・保護者との合意形成 ＊P 3 9参照 <input type="checkbox"/> 教育課程届け出提出（教育支援課へ） <input type="checkbox"/> 6年生進路指導、上程資料の作成 →特別支援学校、中学校特別支援学級の参観案内を保護者へ配付する。 必要に応じて面談を実施し、進路の意向が、特別支援学校なのか、特別支援学級なのかを確認する。 →7月の就学支援委員会で上程することが望ましい。遅くても11月に上程する。
5月	(運動会)	<input type="checkbox"/> 特別支援教育就学奨励費の手続き →保護者へ申請書を配付する。 <input type="checkbox"/> げんき交流会の計画・準備 →千葉県特別支援教育研究協議会より要項・細案が届く。 <input type="checkbox"/> 夏休み作品展・ふれあいカレンダー原画選考作品出品の計画と準備 →要項は4月に特別支援学級担当者会議で配付される。
6月	中学校特別 支援学級参観 げんき交流会	<input type="checkbox"/> 夏休みのしおりと課題の作成 <input type="checkbox"/> 個人面談の計画と実施 <input type="checkbox"/> 次年度使用教科書の採択と届け出（校内教科書担当と確認が必要） →個人面談で保護者と、学年の教科書がよいか、☆本や一般図書がよいか等の共通理解を図るとよい（記録しておく）
7月	保護者面談 夏休み作品展	<input type="checkbox"/> 前期 補助簿・通知表作成 <input type="checkbox"/> ふれあいカレンダーの購入希望募集・申し込み ※全校に配付
8月		
9月		

10月	前期終業式 後期始業式	<input type="checkbox"/> 後期 個別の指導計画作成 <input type="checkbox"/> 就学奨励費第1回提出（学事課）
11月	就学時健診	<input type="checkbox"/> 総合展作品の準備 →学級数に応じて出品数が違うので、要項を確認する。 <input type="checkbox"/> 就学奨励費申請書類を保護者に配付
12月	保護者面談	<input type="checkbox"/> 個人面談の計画と実施 <input type="checkbox"/> 冬休みのしおりと課題の作成
1月	総合展	<input type="checkbox"/> 就学奨励費第2回提出（学事課） <input type="checkbox"/> 「6年生を送る会」の計画と準備
2月	6年生を送る会	<input type="checkbox"/> 後期 補助簿・通知表作成 <input type="checkbox"/> 個別の教育支援計画の評価と所見の作成 →保護者、学校長の署名。6年生は、原本を保護者に返却する。同意のもとコピーを取り、学校で5年間保存する。
3月	卒業式 修了式	<input type="checkbox"/> 次年度の学級会計予算作成 <input type="checkbox"/> 指導要録の記入 →卒業生の分は、進学先へ要録の写しを送付 <input type="checkbox"/> 卒業生の進学先との引継ぎ準備と実施 <input type="checkbox"/> 学級経営案の評価 <input type="checkbox"/> 次年度の学級編成・引継ぎ文書作成

げんきキャンプ

- プログラム考案・下見、職員会議で提案・承認（2～3か月前）
- 保護者説明会（1～2か月前）
- 少年自然の家提出書類・委員会提出書類（事前・事後）
- 療育手帳を取得していれば利用料免除がある。

*保護者説明会では、プログラムについて・事前健康調査・緊急時連絡先等の資料を配付

就学前（年長児）参観（主に6月～11月）

- 養護教育センターから学校長宛に参観依頼の文書が届く。特別支援学級担任あるいは、教頭、特別支援教育コーディネーターが保護者に連絡を入れて、参観日を決定する。参観当日は、学級経営や日課表などの資料を渡せるとよい。また、管理職とも顔合わせができるとうい。
- *家庭から学校へ直接申し込みが来た場合は、養護教育センターへの連絡を促す。

★年度初めに、学校に届いている措置通知「就学支援委員会における判断及び就学措置予定について（通知）」を確認し、入級する学級（知的障害特別支援学級、自閉症・情緒障害特別支援学級等）や期限付き入級などについて把握してください。

〈中学校〉

月	行事	特別支援学級担任のおもな業務内容（例）
4月	始業式 入学式 健康診断 授業参観・保護者会	<input type="checkbox"/> 時間割作成 <input type="checkbox"/> 保護者会資料、案内作成 <input type="checkbox"/> 入学式準備（可能であれば新入生の入学式練習も行う） <input type="checkbox"/> 教科書配付・配布リスト作成 <input type="checkbox"/> 授業参観・保護者会準備 <input type="checkbox"/> 作業班決め <input type="checkbox"/> 交流及び共同学習計画・準備 <input type="checkbox"/> 体育祭交流計画 <input type="checkbox"/> 個別の教育支援計画作成 <input type="checkbox"/> ゆうあいピック参加申込・事前指導 <input type="checkbox"/> 実習準備（実習場所検討、作成書類、委員会届出書確認） <input type="checkbox"/> 教育課程等届け出提出（教育支援課） <input type="checkbox"/> 学級経営案作成
5月	体育祭 修学旅行・校外学習 ゆうあいピック	<input type="checkbox"/> 個別の指導計画作成のための資料配付 <input type="checkbox"/> 合唱祭（コンクール）参加形態を音楽科と検討 <input type="checkbox"/> げんき交流会の計画・準備 <input type="checkbox"/> 就学奨励費申請資料を保護者へ配付
6月	保護者面談 進路説明会 前期中間テスト 小学校支援学級生徒参観日 特別支援学校見学・体験	<input type="checkbox"/> 個別指導計画作成 <input type="checkbox"/> 進路説明会準備 <input type="checkbox"/> 中間テスト問題作成・提出 <input type="checkbox"/> 小学生参観受け入れ準備 <input type="checkbox"/> 夏休み作品展準備 <input type="checkbox"/> ふれあいカレンダー原画選考作品出品計画と準備 <input type="checkbox"/> 特別支援学校見学・体験・夏季入学相談案内配付・申込 <input type="checkbox"/> げんきキャンプ打合せ① <input type="checkbox"/> 夏休みのしおり・課題作成
7月	げんき交流会	<input type="checkbox"/> 3年面接指導（夏季入学相談に向けて） <input type="checkbox"/> 通知表形式確認 <input type="checkbox"/> 産業現場等における実習（実施時期は学校による） <input type="checkbox"/> 合同予餞会グループ決め、内容検討
夏季休業中 8月	作品展 特別支援学校夏季入学相談	<input type="checkbox"/> 次年度消耗品・備品購入希望提出 <input type="checkbox"/> 次年度使用教科書の届出 <input type="checkbox"/> 個別の指導計画の修正 <input type="checkbox"/> 個別の教育支援計画の追記 <input type="checkbox"/> 補助簿・通知表作成・提出 <input type="checkbox"/> 期末テスト作成・提出 <input type="checkbox"/> げんきキャンプ打合せ②
9月	前期期末テスト げんきキャンプ事前学習会	<input type="checkbox"/> 通知表配付準備 <input type="checkbox"/> げんきキャンプ打合せ③

10月	合唱祭 前期終業式 後期始業式 げんきキャンプ 3年進路面談	<input type="checkbox"/> 就学奨励費第1回提出（学事課）
11月	後期中間テスト 特別支援学校入試説明会	<input type="checkbox"/> 卒業アルバム・文集作成 <input type="checkbox"/> 総合展準備 <input type="checkbox"/> 中間テスト問題作成・提出 <input type="checkbox"/> 冬休みのしおり・課題作成 <input type="checkbox"/> 特別支援学校受検者の調査書作成・願書作成指導 <input type="checkbox"/> 3年面接指導 <input type="checkbox"/> 合同予餞会打合せ
12月	保護者面談 特別支援学校普通科(職業コース)及び専門学科出願	<input type="checkbox"/> 次年度に向け評価 <input type="checkbox"/> 次年度使用教科書届出 <input type="checkbox"/> 就学奨励費申請書類を保護者に配布
1月	総合展 特別支援学校普通科(職業コース)及び専門学科入試、発表、確約書提出 // 高等部普通科出願	<input type="checkbox"/> 就学奨励費第2回書類提出（学事課） <input type="checkbox"/> 歓送会交流計画 <input type="checkbox"/> 合同予餞会練習・準備
2月	後期期末テスト 新入生入学説明会・体験入学 合同予餞会 特別支援学校高等部普通科入試、発表、確約書提出	<input type="checkbox"/> 新入生体験入学準備（入学式練習なども行う） <input type="checkbox"/> 期末テスト問題作成・提出 <input type="checkbox"/> 補助簿・通知表作成・提出・配付準備 <input type="checkbox"/> 会計処理・会計報告作成・保護者に監査の依頼
3月	歓送会 卒業式 修了式 引継ぎ（進学先、小学校）	<input type="checkbox"/> 次年度教科書採択の決定 <input type="checkbox"/> 要録作成 <input type="checkbox"/> 個別の教育支援計画の評価と所見の作成 →保護者、学校長の署名 <input type="checkbox"/> 次年度準備（引継ぎ文書、年間計画、交流計画等） <input type="checkbox"/> 進学先引継ぎ準備（個別の教育支援計画、個別指導計画、要録の写し等送付）
通年	<input type="checkbox"/> 委員会提出文書 <input type="checkbox"/> 会計処理 <input type="checkbox"/> 学級だより <input type="checkbox"/> 必要に応じて面談 <input type="checkbox"/> 各行事の担当（特別支援学級合同行事は毎年ローテーションで担当を分担している）	
学年行事	1年校外学習、2年自然教室、3年修学旅行の時期は学校による。学年職員との打ち合わせ、参加同意書配付、事前指導、事後指導などを行う。日頃から各学年主任と連携をとっておく。	
その他	<input type="checkbox"/> 校内に特別支援学級入級希望生徒がいる場合は、管理職を中心とした校内支援委員会で協議し、上程資料を作成する。就学支援委員会に合わせて提出する（5、7、9、10、11、1月）。 <input type="checkbox"/> バザーを行う学校もある。（作業作品を販売） ★年度初めに、学校に届いている措置通知を確認し、入級する学級（知的障害特別支援学級、自閉症・情緒障害特別支援学級等）や期限付き入級などについて把握してください。	

一人一人の教育的ニーズに応じた教育課程

1 特別支援学級の教育課程

特別支援学級は、基本的には小・中学校学習指導要領に沿って教育が行われますが、児童生徒の実態に応じて、特別支援学校の学習指導要領を参考にして特別の教育課程を編成できるようになっています。

特別支援学級

小・中学校に設置された学級の一つ・障害のある児童生徒を対象に特別に編成
(学校教育法第81条)

【基本】通常の学級と同じように、小・中学校学習指導要領に基づき、教育課程を編成
(学校教育法に定める小・中学校の目的・目標を踏まえます。)

【参考】 小学校 学校教育法施行規則第50条から第52条
中学校 学校教育法施行規則第72条から第74条

対象となる児童生徒の障害の種類、程度等によっては、障害のない児童生徒に対する教育課程をそのまま適用することが必ずしも適当ではない場合があります。

特に必要がある場合は、「特別の教育課程によることができる」

(学校教育法施行規則第138条)

特別な教育課程を編成する場合には、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領を参考とし、個々の児童生徒の障害の状態等に応じた効果的な指導を行います。

【教育課程編成の留意事項】 H21「特別支援学級担任のためのハンドブック」より

- 学校全体の教育課程の構想と特別支援学級の教育課程を密接に、有機的に関連させましょう。
- 特別の教育課程を編成する場合は、特別支援学校学習指導要領を参考にしましょう。
- 児童生徒の実態(障害の種類、障害の程度)に対応した指導形態や指導内容を考慮しましょう。
- 児童生徒の社会性を育み、好ましい人間関係を育てる視点から、児童生徒の実態を考慮しながら、通常の学級との交流及び共同学習を積極的かつ計画的に推進しましょう。
- 他の学校の特別支援学級との合同による学習について配慮しましょう。
- 地域の人々や近隣の特別支援学校の児童生徒との交流及び共同学習を図りましょう。

2 特別の教育課程

特別の教育課程の編成で可能なこと

①自立活動の指導 ※特別支援学級では、必ず取り入れることとされています。

「児童生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う」ことを目標に指導を取り入れます。指導内容は、6つの区分に分けられた27項目があります。その全ての項目ではなく、個々の児童生徒の実態に応じ、必要な項目を選定して、相互に関連付けながら取り扱います。指導に当たっては、障害の状態や発達段階等の的確な把握に基づくため、個別の指導計画を作成する必要があります。

【自立活動の内容の6つの区分】

- 1 健康の保持 2 心理的な安定 3 人間関係の形成
4 環境の把握 5 身体の動き 6 コミュニケーション

☆詳細は、「特別支援学級担任のためのハンドブック自立活動編」を参照。

②各教科の内容

児童生徒の習得状況を把握し、当該学年の各教科の内容を適用することが実態に合わない場合は、下学年の内容や特別支援学校(知的障害)の各教科の内容に替えられます。

③授業時数

各教科・領域等の授業時数は、弾力的な取扱いができます。総授業時数は、通常の学級と同じです。

④各教科・領域を合わせた指導

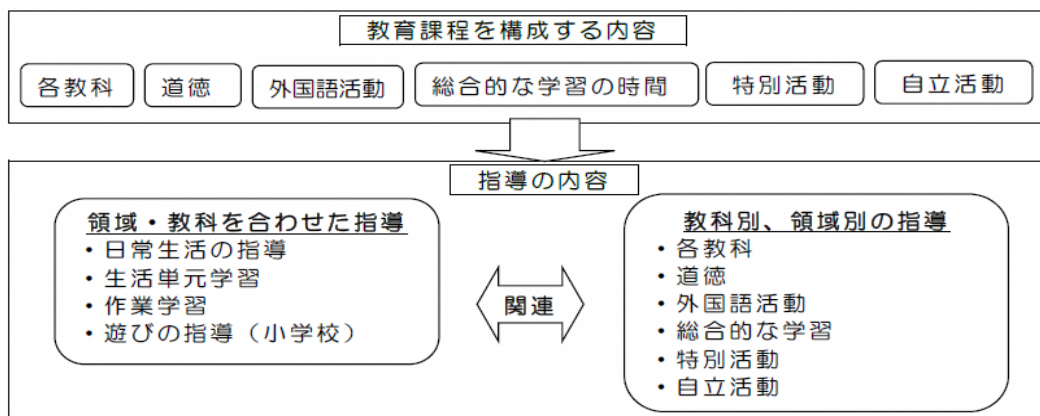
各教科、道徳、特別活動、自立活動、小学校においては外国語活動の一部又は全部を合わせた指導を行うことができます。

⑤教科用図書

特別の教育課程の編成において、検定教科用図書を使用することが適当でない場合には、当該学年の教科書に代えて、他の教科用図書を使用することができます。

(学校教育法施行規則第139条)

特別支援学級においては、「教科別、領域別の指導」と「領域・教科を合わせた指導」の二つの指導形態の特性を考慮して教育課程を編成することが大切です。



(1) 日課表の組み方

○ 小学校の日課表具体例

知的障害学級の例

	月	火	水	木	金
ドリル・読書					
1	日常生活	日常生活	日常生活	日常生活	日常生活
2	算数	体育	算数	算数	体育
業間休み					
3	音楽	国語	国語	国語	図工
4	生活単元学習	生活単元学習	国語	音楽	図工
給食					
昼休み		00タイム		昼休み	
掃除				掃除	
5	国語	自立活動	自立活動	自立活動	日常生活
6	委員会 クラブ	学活	生活単元学習	道徳	総合

児童が個々にもつ課題は「自立活動」で丁寧に対応しましょう。
道徳や外国語活動など積極的に組み入れましょう。



自閉症・情緒障害学級の例

	月	火	水	木	金
ドリル・読書					
1	自立活動	自立活動	自立活動	自立活動	自立活動
2	算数	体育	算数	算数	体育
業間休み					
3	音楽	国語	国語	国語	図工
4	生活単元学習	生活単元学習	国語	音楽	図工
給食					
昼休み		00タイム		昼休み	
掃除				掃除	
5	自立活動	自立活動	自立活動	自立活動	日常生活
6	委員会 クラブ	学活	生活単元学習	道徳	総合



障害特性に応じた指導のために、知的障害学級では、日常生活の指導を带状で、自閉症・情緒障害学級では、自立活動を带状でとりましょう。

期限付き入級児童の例

	月	火	水	木	金
ドリル・読書					
1	自立活動	自立活動	自立活動	自立活動	自立活動
2	算数	体育	算数 5-2 理科交流	算数 6-1 社会交流	体育
業間休み					
3	音楽	国語	国語	国語	図工
4	生活単元学習	生活単元学習 1-1 音楽交流	国語 (書写)	音楽 4-2 書写交流	図工
給食					
昼休み		00タイム		昼休み	
掃除				掃除	
5	自立活動	自立活動	自立活動	自立活動	日常生活
6	委員会 クラブ	学活	生活単元学習	道徳	総合

期限付き入級児童の例のように、通常の学級との交流についても細かく表したり、生活年齢や学年（低・中・高）や個々の実態に合わせたりした日課表を作りましょう。
また、交流する通常の学級担任と相談しながら予定を組んでいきましょう。



詳しくは P21 へ

○中学校の日課表具体例

知的障害学級の例

	月	火	水	木	金
ドリル・読書					
1	日常生活	日常生活	日常生活	日常生活	日常生活
2	数学	理科	国語	数学	英語
3	保健体育	保健体育	生活単元	技術家庭	音楽 美術
4	道徳	自立活動	生活単元	技術家庭	国語
給食					
昼休み・清掃					
5	作業学習	美術	音楽	自立活動	社会
6	作業学習	総合	総合		学級活動

自閉症・情緒障害学級の例

	月	火	水	木	金
ドリル・読書					
1	自立活動	自立活動	自立活動	自立活動	自立活動
2	数学	理科	国語	数学	英語
3	保健体育	保健体育	生活単元	技術家庭	音楽 美術
4	道徳	自立活動	生活単元	技術家庭	国語
給食					
昼休み・清掃					
5	作業学習	美術	音楽	自立活動	社会
6	作業学習	総合	総合		学級活動

期限付き入級生徒の例

	月	火	水	木	金
ドリル・読書					
1	自立活動	自立活動	自立活動	自立活動	自立活動
2	数学 2-2 数学交流	理科 2-2 理科交流	国語 2-2 国語交流	数学 2-2 国語交流	英語 2-2 国語交流
3	保健体育 2-2 社会交流	保健体育	生活単元 2-2 理科交流	技術家庭	音楽 美術
4	道徳	自立活動	生活単元 2-2 英語交流	技術家庭	国語 2-2 理科交流
給食					
昼休み・清掃					
5	作業学習 2-2 国語交流	美術	音楽 2-2 社会交流	自立活動 2-2 英語交流	社会 2-2 数学交流
6	作業学習 2-2 英語交流	総合	総合		学級活動

- ・始業前は、身体づくりや朝自習、読書を行うこともあります。
- ・自閉症・情緒障害学級はその特性から、心身の調和的発達のための基盤を培うため、自立活動を多く設定しています。
- ・期限付き入級生徒は、通常の学級への転籍を意識し、高校等の進学を見据えた編成をします。入学選考に関わる教科は、通常の学級での学習を設定しています。
- ・通常の学級と交流学习する場合は、交流する学級や教科を日課表の中に入れておくとよいです。

〈日課表を立てるポイント〉＊学校により状況は異なるので、管理職や教務主任と相談しましょう。

- ・前年度末に仮の日課表を立て、教務主任や時間割担当の先生と打ち合わせをしましょう。特別支援学級の日課表を先に作成し、教室や教科担当が入る授業を調整することで、帯状の活動を取り入れることも可能です。
- ・教科の専門性を考慮し、それぞれの教科を専門とする担当が授業に入れるように調整するとよいです。また、特別支援学級の担任が入り、担任以外の教科担当だけの授業にならないようにすると、生徒の実態に応じた支援を行いやすく、教科担当も安心して授業に臨みやすくなります。
- ・授業ごとに全員での学習、個別学習、グループ別学習など、授業形態を決めます。
- ・体育館や特別教室の学習場所の確認を取り、他の学級と重ならないように調整しましょう。

(2)年間の行事をポイントに

＜小学校の年間指導計画 知的障害学級具体例＞

学習単位の名称	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
日常生活の指導	朝の会（挨拶、日付け、曜日・天気、献立・日課調べを担当児童が順番に行う）、身辺処理（学習準備、着替え、排泄、帰りの支度等）、給食当番（主食、おかず、牛乳等の配膳を児童だけで行えるようにする）、係活動（手紙・黒板、電気、保健、整頓等）、休み時間の過ごし方												
自立活動	個々の児童の実態や発達面の実態を把握し、指導目標を立て、個別に指導計画を作成する。実態把握の視点及び指導内容は、自立活動の内容6項目（1健康の保持 2心理的な安定 3人間関係の形成 4環境の把握 5身体の動き 6コミュニケーション）を参考にする。												
生活単元学習	楽しい学級 （国語・図工）	運動会 （体育）	交流会 （体育・道徳）	げんきキャンプ （道徳・理科）	まちたんけん （社会）	〇〇祭 （図工）	クリスマス会をしよう （音楽・算数）	弁当を作ろう （算数）	6年生を送る会 （音楽）	お別れ会 （音楽）			
国語	平仮名・片仮名・漢字の練習（視写・なぞり）、単語（名詞の理解）、簡単な文章作成（助詞・動詞の使い方）について個別学習												
	よい耳で聞き ましょう	説明文を読む （順序を意識する、大事な言葉）			動きを表す言葉	物語を読む		年賀状書き	言葉集め		詩を読む		
算数	数の学習、たし算、ひき算、かけ算、わり算について個別学習												
	大きな数 （千、万の位）	いろいろな形 （コンパスや定規）		たし算 ひき算	かけ算		お金・買い物ごっこ		速さ・時間		まとめ		
社会	学習の計画を立てよう		千葉市を知ろう			学校の周りを知ろう（地図記号を使って地図を作り）		千葉県を知ろう		まとめ			
理科	学習の計画を立てよう		自然の観察		植物の育ち方・昆虫の育ち方		動物のすみか・花が咲いた後		磁石のふしぎ・地面の様子と太陽		まとめ		
音楽	明るい声で 歌おう （春の小川）	音楽に合わせて （山の音楽家）		げんきキャン プの歌		合奏しよう		音楽を聴いて 身体反応	クリスマスの歌		卒業式の歌 季節の歌		
図工	自分の顔 写真立て	鯉のぼり	運動会の絵	げんきキャンプの絵	夏休みの絵 紙版画	ものづくり （〇〇祭に向けて）		ランプ作り	冬休みの絵 紙粘土		糸のこ工作		
体育	集合、整列、体操、いろいろな動き（いろいろな歩走、手押し車、両足・片足跳び、おんぶ歩き、寝転がり等）												
	まねして動こう 運動会練習		水泳指導		ボール運動		サーキット運動 （マット、跳び箱、平均台）		縄跳び、鉄棒		いろいろなゲーム （サッカー、ユニホック）		
道徳	節度、節制、親切、思いやり		礼儀、よりよい学校生活			公平、公平 社会正義		集団生活の充実	友情、信頼	善悪の判断	生命の尊さ	勤労、 公共の精神	感謝
年間行事等	入学式 前期始業式	運動会	学習参観 5年 移動教室 げんき交流会 4年 校外学習 6年 校外学習	3年 校外学習 げんきキャンプ 1年 校外学習 2年 校外学習	町探検 前期終業式	全校遠足 6年 農山村留学 後期始業式 学習参観	5年 校外学習 遠足交流会 〇〇祭 芸術鑑賞会	クリスマス会	席書会 かるた大会	学習参観 6年生を送る会	卒業式 修了式		

13

- 学校行事や季節行事等を有効に活用し、各行事でのねらいを整理し、各教科・領域等において具体的な指導計画を立てましょう。また、児童の実態に応じ、身につけさせたい力を踏まえて、学級行事を年間計画に入れても良いでしょう。
- 知的障害学級と自閉症・情緒障害学級で日課表が違うように、年間指導計画でも違いを分かりやすく表せると良いですね。
- 児童の実態に合わせて、配布された教科書以外の教科書や教材も積極的に取り入れていきましょう。また、積極的に交流学級での授業を取り入れていくことも大切です。



<小学校の年間指導計画 自閉症・情緒障害学級具体例>

学習単位の名称	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
日常生活の指導	朝の会（挨拶、日付け、曜日・天気、献立・日課調べを担当児童が順番に行う）、身辺処理（学習準備、着替え、排泄、帰りの支度等）、給食当番（主食、おかず、牛乳等の配膳を児童だけで行えるようにする）、係活動（手紙・黒板、電気、保健、整頓等）、休み時間の過ごし方										
自立活動	個々の児童の実態や発達面の実態を把握し、指導目標を立て、個別に指導計画を作成する。実態把握の視点及び指導内容は、自立活動の内容6項目（1健康の保持 2心理的な安定 3人間関係の形成 4環境の把握 5身体の動き 6コミュニケーション）を参考にする。										
生活単元学習	楽しい学級 （国語・図工）	運動会 （体育）	交流会 （体育・道徳）	げんきキャンプ （道徳・理科）	ハロウィン祭りをしよう （図工・音楽）		クリスマス会をしよう （音楽・算数）		おもちを作ろう （算数）	6年生を送る会 （音楽・図工）	
国語	お話を読もう ふきのとう	お話を読もう スイミー		書いてみよう きょうのできごと		お話を読もう ミリーのすてきなぼうし		話す・聞いてみよう ともだちを さがそう		お話を読もう どうぶつ園のじゅうい	
算数	数と数字 なんばんめ	数と数字 いくつといくつ		数と数字 10よりおおきいかず		図形 かたちづくり		学びを生かそう もののいち	時計 なんじなんぶん		長さ・かさ 大きさをくらべ
社会	学校のみわり		市の様子		店ではたらく人		工場の仕事		古い道具と昔のくらし		まとめ
理科	天気と気温	春の星座	電池の働き	夏の星座	星の明るさや色	秋の星座	もののあたたまり方		冬の星座	姿を変える水	春のおとずれ
音楽	さんぽ	じゃんけんぽん		かたつむり	しろくまのジェンガ		おとさがし	あいあい	さがしてみよう	ならってみよう	きみがよ
図工	絵具でゆめもよう		ココロカラー	まぼろしの花		元気のおまもり		おもしろだんボールボックス		ポーズの秘密	これでえがくと
体育	まっすく走ろう	表現運動	水泳指導		ボール運動	マット運動	跳び箱	縄跳び、鉄棒		サッカー	
外国語	Hello!		How are you?		How many?		I like blue.		What do you like?		まとめ
道徳	正直、誠実	個性の伸長	友情、信頼	親切、思いやり	国際理解、 国際親善	公正、公平	規則の尊重	個性の伸長	よりよい学校生活	勤労、 公共の精神	生命の尊さ
年間行事等	入学式 前期始業式	運動会 5年移動教室 6年校外学習	学習参観 げんき交流会 4年校外学習	3年 校外学習 げんきキャンプ	前期終業式 1年 校外学習 2年 校外学習	6年農山村留学 後期始業式 学習参観	全校遠足 遠足交流会 ハザー	クリスマス会 5年 校外学習 芸術鑑賞会	席書会 かるた大会	学習参観 6年生を送る会	卒業式 修了式

日常生活の指導

「今日は何の日」等の季節的な内容を盛り込むと変化をつけられることができます。

国語

行事や季節に合った絵本を関連させ、読み聞かせをしたり、劇化したりすると読みが深まったり表現が豊かになったりします。

生活単元学習

経験させたいことや身につけさせたいことなどを学習のまとめ（単元）として意図的に組んで計画しましょう。



体育

肥満防止・運動量の確保・ストレス発散のためにも継続した運動は効果的です。

自立活動

障害種や児童の学習上や生活上の困難に応じて計画しましょう。

外国語・道徳

児童の実態に合わせて積極的に取り組みましょう。

音楽・図工

季節感を出しやすい教科です。実態に応じてねらいを明確にしましょう。

< 中学校の年間指導計画具体例 >

教科の系統性をもたせながらも、年間の行事（例：「げんき交流会」「げんきキャンプ」「合同予餞会」）や学習テーマに関連付けて、より具体的、体験的な学習ができるようにしましょう。

領域・教科を合わせた指導は、行事と関連させて計画を立てましょう。

生活単元学習は、生徒が、自立的な生活に必要な事柄を実際的・総合的に学習するものです。

例：「千葉市科学館に行こう」
→生徒たちで計画を立て、班を作り、交通機関を使って現地へ出向いて学習をします。

国語と数学は、生活に密着した内容が含まれるので、習熟度に合わせてグループ別に学習する等、工夫して授業を組みましょう。担任の人数が少ない場合は、読み聞かせなどの一斉学習をしてから、グループに分かれ、グループごとの学習課題に取り組ませる方法もあります。

総合的な学習は、学校全体の計画に基づいて、学級の生徒たちに合わせた活動を組みましょう。

例：「地域の仕事マップを作ろう」地域の施設や企業に出向き、インタビューを通して仕事内容を学習し、レポートを作成します。

自立活動は、障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を身につけることを目的とするものです。教育課程に必ず位置付けます。

道徳は、学校の教育活動全体を通して、道徳的な心情など道徳性を養うことをねらいとします。通常の学級と同じ題材を扱ったり、ワークシートを自作したりしていきます。

作業学習は、領域・教科を合わせた学習形態の一つで、将来の社会自立を目指した学習です。作業種や生徒の実態に合わせて週に数時間組みます。準備や後片付けの時間、「報告・連絡・相談」を意識した作業など、生徒の集中力や持続力を高める目的があります。交流の意味も含めて、通常の学級の担任に授業に出てもらうのも一つの方法です。産業現場等における実習の時期には、1～2週間続けて作業学習（実習に出ない生徒のための校内実習として）を組むこともあります。作業のまとめとして作品の販売会を行う学校もあります。



＜中学校の年間指導計画 特別支援学級具体例＞

学習単位の名称	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
国語	日付・干支	原稿用紙の使い方	詩を作ろう	俳句をつくろう	思い出スピーチ	礼状を書こう	物語を読もう	年賀状を書こう	劇をしよう	作文を書こう	まとめ
数学	数と計算（たし算、ひき算、かけ算、わり算）について個別学習										
	時刻と時間		長さ		重さ	大きい数	表とグラフ		図形		まとめ
社会	ニュース	千葉県や千葉市について知ろう		都道府県について知ろう		世界について知ろう		歴史について知ろう		法律について知ろう	
理科	植物観察	空気の実験	植物観察	熱の実験	力の働き	光の実験	人体	いろいろな生物	化学の実験	電気の実験	まとめ
音楽	歌唱・鑑賞・リズム・創作（校歌、クラシック、季節の歌）				合唱コンクールに向けて		器楽（リコーダー・和楽器）		劇の歌	式歌	
保健体育	集団行動・ダンス	バスケットボール	ボッチャ	水泳	キックベース	陸上競技	器械運動	マラソン	サッカー	武道	まとめ
	生活習慣病の予防			応急手当	心身の発達			傷害の防止		健康と環境	
美術	デッサン	水彩画			木工芸		彫塑		コラージュ	鑑賞	まとめ
技術	PCでカード作り	タブレットの使い方・情報モラル			キーホルダー作り		マルチメディアの活用		プログラミング		まとめ
家庭	小物作り	巾着袋作り		衣服と住まいの工夫		食生活・食事と調理の基礎・お弁当作り		消費生活	家庭生活と役割		
英語	挨拶、歌	アルファベット・フォニックス		身近な英語（曜日・天気）	身近な英語（食べ物）	ハロウィンについて	身近な英語（動物）	クリスマスカードを書こう	新年の挨拶	身近な英語（数・時刻）	まとめ
道徳	自主・自律	礼儀	節度、節制	生命の尊さ	友情、信頼	思いやり、感謝	相互理解と寛容	公正、公平、社会正義	家族愛	公共の精神	
自立活動	個別の指導計画や個別の教育支援計画を踏まえて設定（6区分27項目より、個別の実態に応じて設定） 例：健康の保持「規則正しい生活を意識しよう」、心理的な安定「気持ちを落ち着かせる方法を知ろう」、人間関係の形成「集団活動のマナーやルールを知ろう」「相手の気持ちと表情を知ろう」、環境の把握「見本と同じマークを見つけよう」、身体の動き「ボタンをすばやく留めよう」、コミュニケーション「場や相手に応じた話し方を意識しよう」 ☆知的障害学級、自閉症・情緒障害学級、期限付き入級の生徒では、目標と学習内容が変わる。それぞれの違いを明確にして、設定する。										
生活単元学習 (関連する教科等)	学級作り 新入生歓迎会 (音楽・美術等)	ゆうあいピック 体育祭 (保健体育・道徳等)	修学旅行 げんき交流会 (保健体育・社会等)	校外学習 夏休みのしおり (社会・道徳等)	合唱コンクール (音楽・美術・道徳等)	げんきキャンプ (保健体育・音楽・道徳等)	作品販売会 職場実習 (社会・数学・技術等)	合同予餞会に向けて 自然教室・合同予餞会・3年生を送る会 (保健体育・音楽・美術・社会・道徳等)			お別れ会 (国語・音楽 美術・道徳等)
作業学習	紙すき（はがき作り）、園芸（花や野菜栽培）、木工（ペン立て作り）、 手工芸（アクセサリー作り、かご作り）、作品の販売会							合同予餞会で使う用具の準備		次年度 作業準備	
日常生活の指導	着替え、朝の会、帰りの会、身体づくり運動、マラソン、係活動										
総合的な学習	職業マップを作ろう（地域の職業調べ）					災害から身を守ろう（地域の取組調べ）			世界の衣服や食べ物を調べよう		
年間行事等	前期始業式 入学式 新入生歓迎会 避難訓練	絵を描く会 体育祭 ゆうあいピック	修学旅行 げんき交流会	校外学習	避難訓練 げんきキャンプ 事前学習会	前期終業式 後期始業式 合唱コンクール げんきキャンプ	球技大会 作品販売会 職場実習	芸術鑑賞会 地域清掃	授業参観 入試 自然教室	新入生説明会 公立入試 合同予餞会	卒業式 お別れ会 修了式

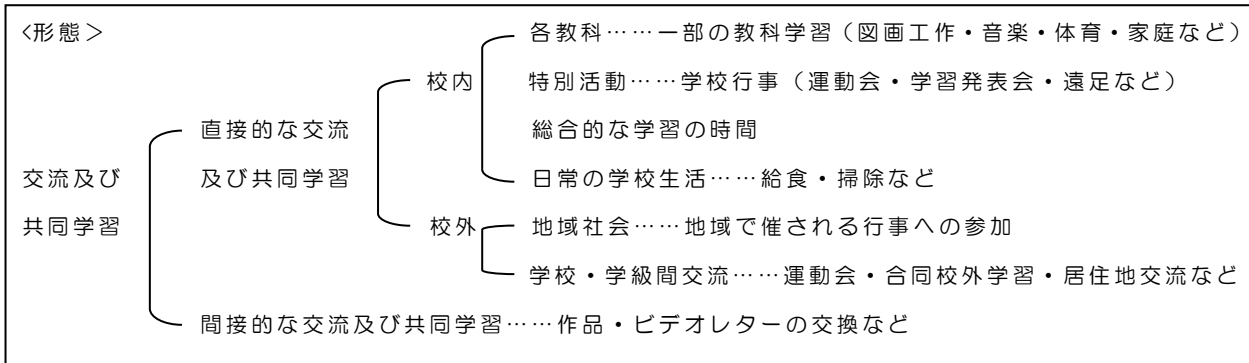
※国語、数学は、学習内容の習得状況によりグループ学習の形態を取っている。

3 交流及び共同学習

(1) 目的と形態



通常の学級での交流及び共同学習は、障害のある児童生徒の経験を広め、社会性や豊かな人間性を育む上で大切な学習です。障害のない子供たちにとっては障害に対する正しい理解や認識を深めるための機会であり、思いやりや、いたわりの心を育て、人間の多面的な価値を築く上で大切なものです。



(2) 指導上のポイント

○まずは、年度当初に交流計画を提案しましょう。

- ・事前に児童生徒一人一人の交流学級を決めておくと、その後の交流活動がスムーズに行えます。
- ・教科の交流については、事前に本人、保護者、教師で、座席の位置や参加の仕方等についての話し合いを十分に重ねましょう。
- ・交流をする際は、児童生徒への説明、机の準備等、通常の学級への受け入れ態勢を整えてもらいましょう。その後も特別支援学級担任が交流の様子を参観し、教科書や教材の手配、テストの実施方法、評価の仕方等について、通常の学級担任と連携を図りましょう。

(3) 内容例

< 校内交流 >

- ・教科交流……特別支援学級の児童生徒が通常の学級と一緒に学習。
- ・特別活動……学校行事、クラブ、委員会活動、集会、部活動等での交流。
- ・総合的な学習の時間……学校全体の目標に沿って、テーマや参加形態を考え実施。
- ・日常生活での交流……給食交流、清掃交流、休み時間交流。
- ・学級間交流……交流全般を学校や学級で企画（レクリエーション活動・合同調理実習等）。
- ・教職員交流……補欠授業や交換授業等（特別支援学級の先生と一日交換授業等）。

< 地域交流 >

- ・地域の行事……育成委員会などの合同行事を通しての交流。
- ・販売会やバザー……作業作品の販売会などを通しての交流（中）。
- ・近隣校交流……近隣の小・中・特別支援学校や施設などとの交流。

〈千葉市内特別支援学級・特別支援学校との交流〉

(1) 小・中学校に共通する合同行事

○げんきキャンプ（学校により実施時期は異なる）

…長柄町にある千葉市少年自然の家で行われる合同の宿泊学習です。「豊かな自然環境の中で、親元を離れて様々な体験活動を行うことにより児童生徒の生きる力を養う」「他校の児童生徒との交流活動を通して、社会性を育む」「自分のことは自分でしようとする意欲や力を養う」「個々の基本的な生活習慣の実態を把握する」「教師間交流を図ることにより指導力を高めたり、情報交換したりする機会とする」ことを目的に行っています。



○げんき交流会（6月下旬頃）

…千葉市立の特別支援学級・特別支援学校の児童生徒が、千葉ポートアリーナに集まり、交流活動を行います。小学校はダンスや綱引き、簡単なゲーム等を行い、中学校はフライングディスクやポッチャ、バスケットボールなどを行っています。また、小・中ともに代表児童生徒によるリレーも行っています。



(2) 小学校の合同行事

○行事ごとの交流会（各学校において適宜行う）

…行事や単元を合同で行う場合の交流会です。例えば、げんきキャンプの事前交流会や、町探検・学校探検などの交流会などです。

(3) 中学校の合同行事

○ゆうあいピック（5月頃・申し込み制）

…4月1日現在で12歳以上の知的障害児(者)を対象とし、自立と社会参加の促進と、知的障害者スポーツの発展と社会への理解と認識を深めることを目的とした行事です。全国障害者スポーツ大会の予選会を兼ね(新入生の部は対象外)年1回開催されます。

○合同予餞会（2月上旬）

…「交流を深める」「日頃の学習の成果を発表する」「卒業する喜びや祝う気持ちを表現し、楽しい一日を過ごす場とする」を目的に、合唱や劇等の学習発表、3年生を送る会などを行います。



4 進路学習

特別支援学級における進路学習とは、すべての教育活動を通して、「一人一人が自立的に、社会で生活できる力」を育てていくことです。

《小学校特別支援学級》

○一人一人の発達段階や特性を理解し、保護者と共に子供の将来像を見つめ、身辺処理や基礎的学力、基本的生活習慣、通学、働く力などを高められることをねらいにしましょう。

○小学校で身につけてほしい力

生活面

- ◆ 着替えの仕方（前後表裏を正しく着る、たたむ、決まった場所で着替える、ベルトをはめる等）
 - ◆ 靴の履き方（左右正しく履く、立って履く、靴紐を結ぶ、かかとを揃えて置く等）
 - ◆ 排泄の仕方（大便の処理(おしり拭き)ができる、男子はズボンを膝まで下ろさず小便をする等）
 - ◆ 食事のマナー（食器を正しく持つ、スプーンや箸を正しく使う、口を閉じて食べる、嫌いなものも少しは食べる、食事の準備や配膳ができる等）
 - ◆ 掃除の仕方（バケツに水を入れて運ぶ、雑巾を絞る、ほうきやちりとりを使う、床や階段の雑巾がけができる、机やいすを引きずらずに運ぶ等）
 - ◆ 時間を守る（時間に遅れないように準備をする、時間いっぱい活動に取り組む等）
 - ◆ 身だしなみや清潔・健康（手を洗う、鼻をかむ、シャツを入れる、ボタンを留める、髪を結ぶ等）
- ☞年度当初に S-M 社会生活能力検査を実施します。質問項目が、指導内容の参考になります。

コミュニケーション力・感情や行動のコントロール

- ◆ 挨拶、返事、お礼、謝罪などができる（場面や相手に応じて、目を見て、気持ちを込めて）。
- ◆ 困った時に助けを求めることができたり、状況の説明ができたりする。
（「分かりません、教えてください。」など）
- ◆ 目上の人への言葉遣いに気を付けることができる（敬語の使い方）。
- ◆ 自分の意にそぐわない時に、落ち着いて対応することができる（アンガーマネジメント）。
- ◆ 何事にも、粘り強く取り組むことができる。

○中学校進学に向けて

〈保護者への案内等〉

- 6年生の保護者には、中学校特別支援学級参観日の情報を伝えます。
中学校ごとに日程が決まっています（6月・7月）。参観できるのは、「学区の中学校」です。居住地の中学校に特別支援学級がない場合は、教育支援課に確認し、近隣の特別支援学級が設置されている学校を参観します。
- 特別支援学校（千葉市立養護学校・千葉県立千葉特別支援学校、千葉大学教育学部附属特別支援学校など）は、各学校からオープンスクールや学校参観のお知らせが届きます。担任からの申込が必要な場合もあります。



〈今後の学びの場の確認〉

中学校卒業後の進路や将来像について、保護者との個人面談等で確認しましょう。

- 高等学校の受験を考えている場合は、通常の学級への転籍を検討することも必要です。特別支援学級在籍でも高等学校の受験はできますが、高等学校入学後の集団生活への適応を考えることが大切です。転籍に当たっては、通常の学級での交流学习を積み重ねた上で、校内支援委員会等で慎重に検討します。また、転籍が校内で決定した場合は、上程資料を作成し、就学支援委員会にかけることが必要です。
- 中学校特別支援学級から高等特別支援学校の受験の可能性のある児童については、日頃の生活での経験を積み上げたり、小学校3～4年生の学習を身に付けたりすることも大切です。

《中学校特別支援学級》

○生徒の卒業後の進路（就職、高校、特別支援学校高等部進学等）を見通し、面談や現場実習、見学等を組み入れ、進路指導計画を立てて実施しましょう。

○教育課程全般を通して、「進路」を関連付けた学習や単元を組みましょう。

○中学校で身に付けてほしい力（小学校で身に付けたい力に加えて）

生活面

- ◆ 制服の着こなし（決まったルールに沿って正しく着用する、正しくたたむ等）
- ◆ 身の回りの整理整頓（ロッカーに持ち物を整えて収納する、元の場所に戻す等）
- ◆ 食事のマナー（一緒に食べている人と適度なコミュニケーションをとる、相手と共に気持ちよく食事ができる等）
- ◆ 時間を守る（時間に遅れないように入室や準備をする、5分前行動、時間いっぱい取り組む等）
- ◆ 身だしなみや清潔・健康（シャツを入れる、ネクタイを結ぶ、ベルトをはめる、髪を結ぶ、顔を洗う等）

🏠 中学校でも年度当初に S-M 社会生活能力検査を実施します。質問項目が、指導内容の参考になります。

コミュニケーション力・感情や行動のコントロール

- ◆ 時間や相手、立場に合わせた挨拶、目を見て返事、お礼、謝罪などができる。
- ◆ 困った時に援助を求めることができたり、状況の説明ができたりする。
- ◆ 目上の人への言葉遣いに気を付けることができる。
- ◆ 自分の意にそぐわない時に、怒らず対処することができる。
- ◆ 気が進まない活動でも、粘り強くがんばることができる。
- ◆ 相手との距離感（パーソナルスペースを保って話をする、望ましい男女交際等）

○卒業後の進学

〈療育手帳を取得している生徒の進学〉

※療育手帳について

詳しくはP31へ

- ・知的特別支援学校高等部・高等特別支援学校への進学
- ・高等学校、工業高等専門学校、専修学校、専門学校高等課程、高等技術専門学校、認定訓練校、民間のサポート校などの選択肢もありますが、その場合、通常の学級の生徒と同じ条件での受験です。

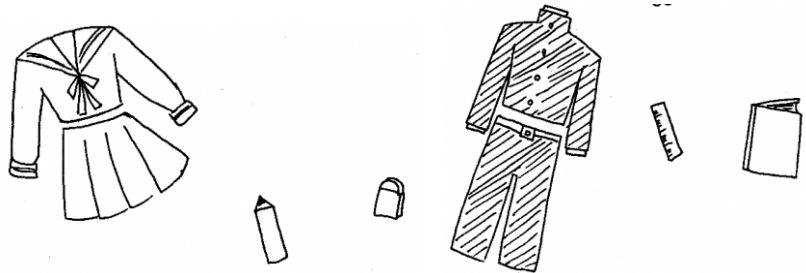
〈療育手帳のない（対象とならない）生徒の進学〉

- ・高等学校、工業高等専門学校、専修学校、専門学校高等課程、高等技術専門学校、認定訓練校、民間のサポート校などの選択肢があります。
- ・知的特別支援学校に進学することはできません。

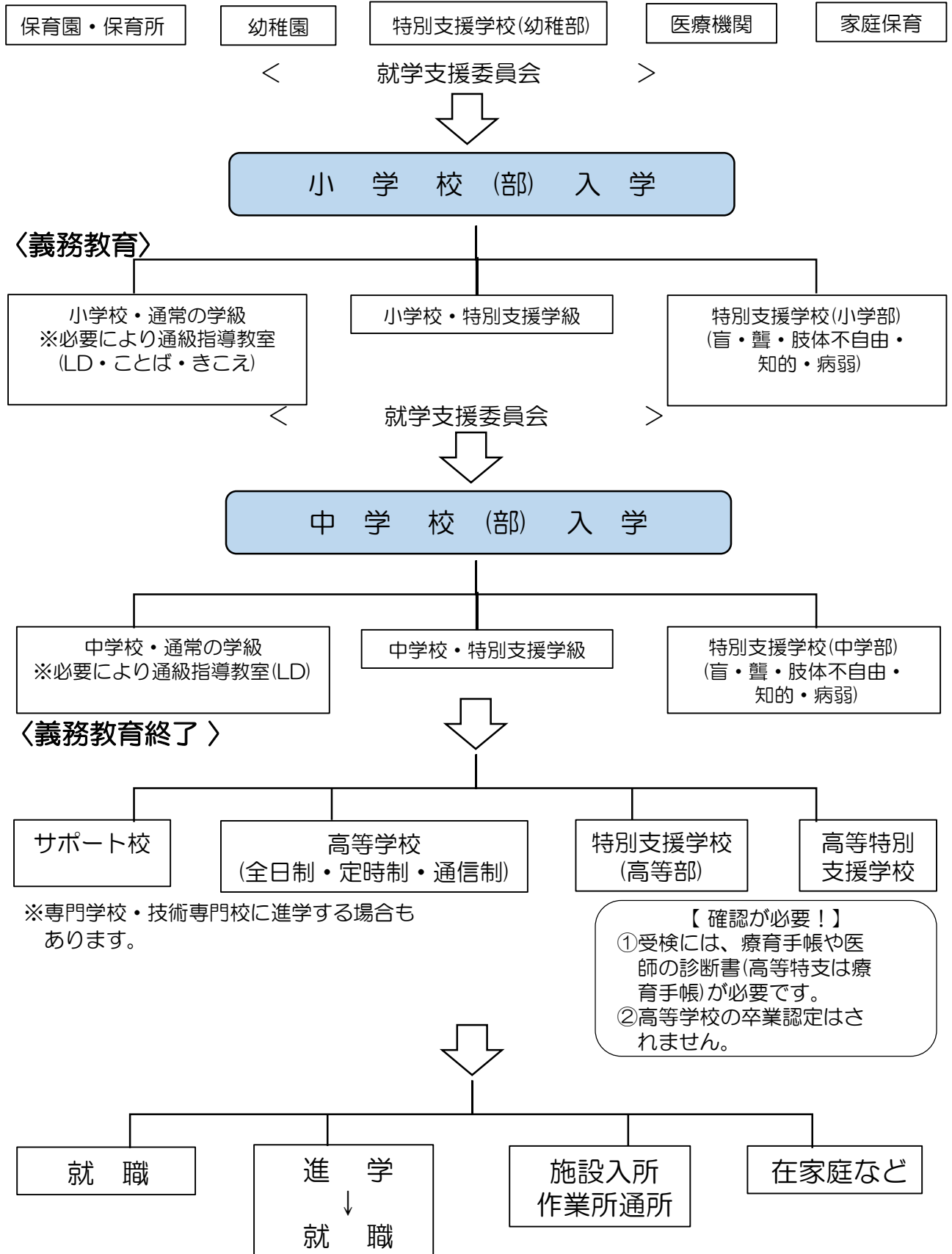
★小・中学校特別支援学級の「進路」に関わる“おさえておきたいこと”

『期限付き入級』

- ・期限付き入級とは、H30年度に導入され、知的に遅れはありませんが発達障害等があり、通常の学級で学習することが難しい児童生徒が、1年か2年後に再審議する期限をつけて、特別支援学級（主に自閉症・情緒障害特別支援学級）に入級することをいいます。療育手帳の取得の対象とならない場合、特別支援学校への進学ができないので、高校入試を見通して、通常の学級への転籍を視野に入れます。就学支援委員会で「自閉症・情緒障害学級適」と判断され、在籍校に届く措置通知にも、「期限付き1年」等と記載されるので、確認が必要です。期限が来た際には、再度就学支援委員会に上程する必要があります。
- ・期限付き入級は、特別支援学級で生き生きと学校生活を送れている児童生徒を、通常の学級へ無理に転籍させるものではありません。できるだけ早い段階で将来に目を向け、可能性を広げようとするものです。結果として、通常の学級に転籍しない児童生徒もいます。しかし、再審議の期限を見据えて指導にあたることは重要です。期限付き入級児童生徒の実態や、学年・学級の実態、学校支援体制等を考慮して、教育課程の編成、学習内容、学習方法、体制等の可能な範囲の工夫が一つでも多く見いだせるとよいです。
- ・再審議までの1年や2年間、期限付き入級児童生徒としてどのように過ごすかを個別の教育支援計画の合理的配慮の欄に記載し、保護者と合意形成を図ることが重要となります。



○進路の見通し



※中学校卒業後、成人の就労支援型の施設には、入所や通所はできません(18歳以上)。
 ※生徒、保護者、学校が十分に話し合いを重ね、進路先を本人が選択できるように支援をします。

諸表簿・資料編

1 通知表（個別の指導計画）・指導要録

(1) 通知表（個別の指導計画）

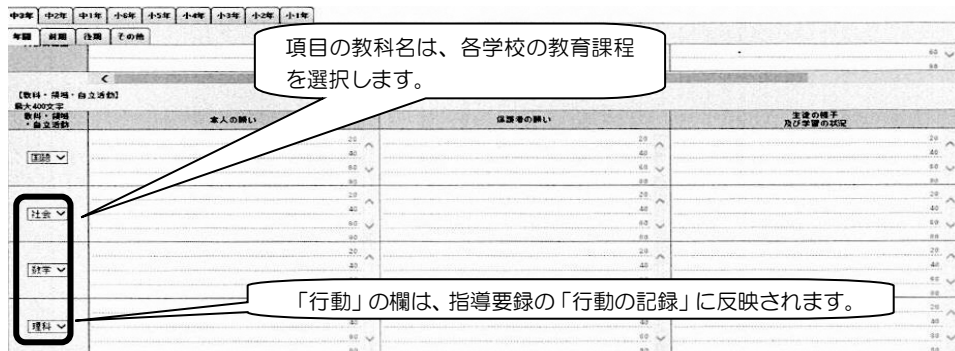
通知表は、児童生徒の学習の状況や学校生活の様子を保護者に伝えることが目的です。どのような目標を立て、どのような学習を行ったか、学習への取り組み方はどうであったかなどを、分かりやすい文章で具体的に記述します。保護者にとって、子供の成長が確認されるものであること、児童生徒にとっては、励みや生きがいとなるものであることが大切ですので、記述には細心の注意が必要です。

令和2年度から通知表の書式について統一化が図られ、現在は Te-comp@ss を利用して作成することが可能です。特別支援学級の通知表の作成手順はマニュアルがあります。ここでは作成に関する留意点をまとめています。

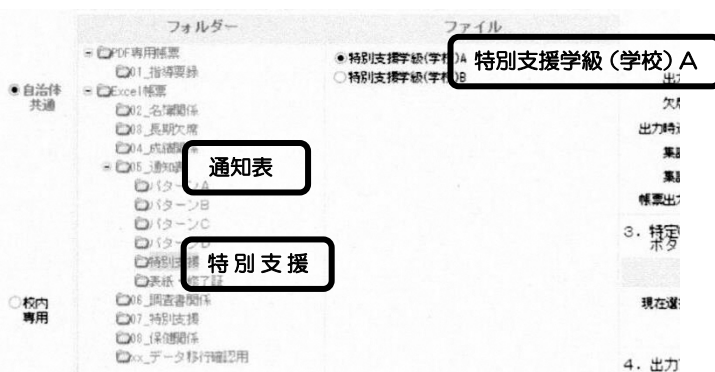
- ① 特別支援学級の通知表は、個別の指導計画、指導要録と関連付けて作成ができます。そのため通知表の作成の前に、個別の指導計画で項目の設定を行う必要があります。



- ② 次に項目を設定します。この項目順に通知表や指導要録に記載されるため、項目の順番はあらかじめ確認をしてください。途中での変更は、入力データが削除されてしまいます。



- ③ 通知表はAとBの2つのパターンがあります。Aは目標と評価を記入し、前期、後期2枚に分かれます。Bは評価だけを記入し、前期と後期が一緒になっています。



例) 小学校特別支援学級 記載例

「※」は、全体を通じて意識できるとよいことです

教科	前期の学習目標	前期の学習の様子
自立活動	<ul style="list-style-type: none"> 目と手の協応動作に、一定時間集中して取り組み続けることができる。 	<p>「形のマッチング」では、集中が続きやすいよう、10分程度で終わる教材を用意しました。台紙に描かれた円、四角形、三角形を見て、その形のマグネットを、正しく重ね合わせることができました。完成までにかかる時間が短くなってきました。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 手順やルールを理解して、集団活動に参加し、負けても受け入れることができる。 	<p>「新聞じゃんけん」では、手本を見てルールを覚えめました。新聞紙に乗るために自分で工夫できたことを、具体的に褒めました。負けても楽しかったと笑顔で発表することができました。</p>
生活単元	<ul style="list-style-type: none"> 身近な人に、自分から挨拶や話をするなどのかかわりをもつことができる。 	<p>「自己紹介ゲーム」では、曲に合わせて教師と歩きながら、話したい相手を探しました。相手を一緒に見つけると、自分から側へ行き、名前を言ったり握手を求めたりする姿が見られました。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> げんきキャンプに行く期日や当日の日程を理解することができる。 	<p>昨年度のげんきキャンプの記録動画を見た後に、写真入りの日程表を作ると、活動内容を大体覚えめました。学校や家庭で、やることや楽しみにしていることなどを説明することができました。</p>
国語	<ul style="list-style-type: none"> プリントのマス目の中に文字を収めて書くことができる。 	<p>姿勢を正して書けるよう、足台を使用しました。足裏で踏ん張って上体を起こして書けるようになり、マス目の中に収まる字が増えました。筆圧も強くなり、読みやすい字になっています。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 10行程程度の文章を読んで、内容を理解することができる。 	<p>題材は変えながら、同じパターン(物の種類の説明文)の文章を読み取る学習に繰り返し取り組みました。「はたらくじどう車」では、どんな車があるかを、口頭で答えました。ショベルカーの役割を、本文から探してノートに書き写すこともできました。</p>
算数	<ul style="list-style-type: none"> 長さごとに具体物を分類することができる。 	<p>2種類の長さの棒の分類を行いました。2本を立てて比べる方法を覚え、「ながい」「みじかい」と書かれた箱に、手際よく分類できるようになりました。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 一桁同士のたし算の答えを書くことができる。 	<p>おはじきを使って、たし算の理解を深めました。次に、「3+4=」などの式の上に丸を書いて考えるようにしました。その方法で、一桁同士のたし算の答えを書けるようになり、ほとんど正解しています。</p>
理科	<ul style="list-style-type: none"> 学んだことを活用して、風で車を動かすことができる。 	<p>「風でうごかそう」では、ペットボトルの車を作りました。帆の大きさ、車体の重さ、風向きなどの工夫を、文字やイラストで伝えました。車が遠くまで走るように、帆を何度も作り直して走らせました。</p>
社会	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方々や警察が協力して交通安全を守っていることがわかる。 	<p>「わたしのまち みんなのまち」では、交番に行ったり、セーフティウォッチャーの方にインタビューをしたりしました。まとめの学習では、「いろいろな人が安全を守ってくれている。僕も気を付けたい」という感想を発表しました。</p>
生活	<ul style="list-style-type: none"> 自分から、次の授業の準備をすることができる。 	<p>準備を始める時間にタイマーを鳴らすようにしました。また、「友達への声かけ係」になったことでやる気が湧き、「本日の日課ボード」を見て、「算数の準備するよ。」など周りに声をかけ、自分の準備もできる場面が増えました。</p>

音楽	・大きな声で歌を歌うことができる。	「じゃんけんぽん」の歌では、曲に合わせて「グー」「チョキ」「パー」の手形のイラストをTVモニターに映すことで興味がもて、大きな身振りと声で、元気よく歌っていました。
図画工作	・いろいろな技法を使って、絵を描くことができる。	あじさいの絵を描きました。ドリッピング(筆を振って絵具を飛ばす)で雨水を描きました。模造紙に向かってドリッピングの練習を何度もすることで慣れ、自分の画用紙にも自信をもって適度な力で筆を振り、雨水を描くことができました。
体育	・ソフトバレーボールを使って、友達とキャッチボールをすることができます。	片手投げ、両手投げ、オーバースロー、アンダースローなど、いろいろな投げ方を伝えました。一番自信をもって投げられたのが、両手のオーバースローでした。3mの距離で、ワンバウンドでのキャッチボールを10回以上続けることができました。 ※回数等、数字を用いると様子が伝わりやすくなります
道徳	・「友達と仲良くし、助け合う大切さ」について、自分の考えを言うことができる。	「助け合い」について、身近な例をもとに考えました。「友達が一人で重たいものを運んでいたら？」の例では、教師が実演で示すと、「一緒に運ぶ」「手伝う」などの考えを発表することができました。
外国語	・英語に興味をもち、簡単な英単語や文章表現を覚えることができる。	色の学習では、赤は「レッド」、青は「ブルー」など、5色ほどの表現を覚えました。「どの色が好きですか」の学習では、英語での質問に対し、白色カードを選び、「I like white」と表現することができました。好きな食べ物やテレビ番組に関する質問にも「I like～」で答える様子が見られました。
交流および共同学習	・周りの行動をまねたり、分からないことを友達に聞いたりしながら交流活動に参加することができます。	交流学級での「お楽しみ会」に向けて、当日に行うゲーム(ポッチャ)や合奏の練習に事前に取り組みました。交流学級での準備や当日は、教えてもらったり誘われたりすることが多かったですが、笑顔で応じていました。ゲームや合奏でも笑顔で、担任が側にいなくても、自信をもって参加していました。

特別活動 の記録	児童会活動	学級活動	クラブ活動	その他
	保健委員会の「衛生チェック活動」では、2年生の教室に行き、チェックの内容を知らせたり、確認をしたりすることができました。	黒板係として、授業後や帰りの会の前に、自分で気付いて黒板の書かれた文字を消すことができました。	「パソコンクラブ」では、ペイントのソフトを使って、写真の合成をしました。インターネットで背景を選び、その背景に自分の写真を合成することができました。	校内絵をかく会 努力賞

所見は、全体を見通した成長の様子、今後の目標などに触れ、次のステップへの意欲がもてるようにします。

総合所見

毎日、登校すると、「おはようございます」と大きな声で挨拶し、素早く荷物をそれぞれの置場に置くことができました。げんきキャンプのレク大会では、初めて会う他校の友達や教師の名前を覚えたり、笑顔で一緒に活動したりすることができました。退所式の感想発表では、話すことを暗記し、みんなの方を向いて堂々と発表することができ、いろいろな人から褒められたことで自信を深めました。その後も、全校集会での「夏休みのめあて」の発表者に立候補するなど、物事に積極的に挑戦しようとする姿が多く見られるようになりました。今後も、新しい経験をさらなる自信や意欲につなげながら成長することを期待しています。

例) 中学校特別支援学級 記載例

記載の注意点「※」はP24、25参照

教科	前期の学習目標	前期の学習の様子
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・小4の漢字を覚え、読んだり書いたりすることができる。 ・主語や述語を理解することができる。 	<p>漢字の書き取りや読み取りの、同じプリントに繰り返し取り組むことで、8割以上、正確に書くことができるようになりました。</p> <p>「何が」「どうした」の部分に線を引く問題に取り組み、主語、述語の関係が理解できました。物語の読み取り問題の正答も増えてきました。</p>
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・地図記号を覚えることができる。 ・日本地図を見て、都道府県名を答えることができる。 	<p>学校周辺の地図と関連付けて地図記号を確認すると、いろいろな地図記号を覚えることができました。</p> <p>都道府県かるたをグループで行い、数枚取れるようになりました。覚えた県を日本地図で確認したことで、位置から答えられる県が増えました。</p>
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り上がりや繰り下がりのある計算を正確に行うことができる。 ・たし算やひき算の文章問題を読み、答えを正しく求めることができる。 	<p>筆算の手順表で説明すると理解し、繰り上がりや繰り下がりのある計算ができるようになりました。</p> <p>「合わせて」は「+」「ちがいは」は「-」などを表に示すと、式を立て、答えを求めることができました。</p>
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・脊椎動物の特徴を理解し、分類することができる。 ・実験器具の使い方を覚え、正しく操作することができる。 	<p>模造紙にまとめる学習で特徴が分かり、写真の動物を6つの分類に分けることができました。</p> <p>顕微鏡やガスバーナーの使い方を動画で確認すると覚え、正しく安全に操作することができました。</p>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞を覚え、大きく口を開けて歌うことができる。 ・楽曲の曲想を感じ、感想を発表することができる。 	<p>校歌の1番だけの繰り返しの練習により歌詞を確実に覚え、自信をもって大きく口を開けて歌えるようになりました。</p> <p>「魔王」の鑑賞では、登場人物やストーリーを最初に確認しました。曲の雰囲気が変わると、「急に激しくなった」など、感想を積極的に発言しました。</p>
美術	<ul style="list-style-type: none"> ・人物の特徴を捉えて描くことができる。 ・モダンテクニックの技法を使い、色や形を考えて表現することができる。 	<p>鉛筆クロッキーでは、目口鼻の配置のバランスを伝えることで、整った顔を描くことができました。</p> <p>マーブリングでは、教師の模範を参考に、できる模様を予測して、絵具を垂らす場所や色、量などを考えながら、一人で作品を仕上げました。</p>
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・バスケットボールでは、シュートを入れられるようになる。 ・感染症の予防について、正しい知識を身に付けることができる。 	<p>ボールを低い場所の的に当てる練習から始め、徐々に上の動かししました。ゴールのボードの四角の部分に当てて、10本中、5本入れられるようになりました。</p> <p>正しい手の洗い方の学習を行いました。手順を覚え、生活場面の手洗いにも自分から生かせるようになりました。</p>
技術	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータでカレンダーを作成することができる。 	<p>コンピュータの起動や終了、表や文字の入力、イラストの貼り付けなど、よく使う機能を操作マニュアルとして提示しました。分からないことは質問しながらカレンダーを完成させました。後半は質問が少なくなり、自分で進められるようになりました。</p>
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に気を付けてミシンを操作することができる。 	<p>ミシンの操作は、手を置く位置を繰り返し確認しました。緊張感をもち、少しずつ布を送り進め、真っ直ぐ縫うことができました。雑巾が2枚完成しました。</p>

教科	前期の学習目標	前期の学習の様子
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 分かる英単語を増やし、活用することができる。 	道案内の学習では、歩きながら「ゴー」「ストップ」「ストレート」などの単語を言うようにしました。右が「ライト」左が「レフト」であることを覚え、ペアの友達に伝えることができました。
作業学習	<ul style="list-style-type: none"> やることが分かり、時間の最後まで作業を続けることができる。 	畑の作業では、草取りや畝立てを行いました。草取りの範囲を決めたり、畝の完成写真を見せたりすることで見通しをもつことができ、終わりの合図がかかるまで、黙々と取り組みました。
生活単元学習	<ul style="list-style-type: none"> 行事の日程や現地までの行き方などを理解し、自分から行動することができる。 	げんき交流会に向けて、千葉ポートアリーナまでの行き方を調べ、自分分かりやすいメモの作成を行いました。当日、公共交通機関を使って、現地まで来ることができました。バスケットボールでは、対戦校名と順番を記憶しており、その都度友達に伝えながら参加しました。
自立活動	<ul style="list-style-type: none"> 10分間走では、一定のペースで走り続けることができる。 	スタート直後にスピードを出しすぎないことを、教師が伴走しながら伝えました。タイムや勝敗よりも、歩いていないことを具体的に褒めることで、一定のペースで1回も歩かずに10分間走り続けられるようになりました。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の気持ちや状況を考え、自分ならどうするかをプリントに書いたり、発表したりすることができる。 	「みんなでせーの！」では、うそをついた登場人物の行動を見て、感想文を書きました。「僕は、うそをついたり、ごまかしたりしないで正直に言いたいです」と、自分ならどうしたいかを書くことができました。
学習の時間 総合的な	<ul style="list-style-type: none"> 働くために必要な力が分かり、まとめることができる。 	職場体験学習の事後学習では、働くことの喜びや難しさなどを思いつく限り紙に書き出す学習をしました。その後の模造紙にまとめる学習では、「挨拶や返事が大切」ということを一番大きな文字で書いていました。

特別活動の記録			
生徒会活動	学級活動	部活動	表彰・資格・その他
学級会長	プリント係	パソコン部	げんき交流会バスケットボールの部優勝

総合所見
<p>学級委員長として、話し合い活動の進行や級友への呼びかけなどを意欲的に行いました。また、下級生が困っている時に、優しくアドバイスする姿も多く見られました。清掃では、隅々まで丁寧に掃き掃除や雑巾がけをするなど、学級の手本として行動することができました。後期は、げんきキャンプや校外学習などの行事があります。日頃の学習の成果を学校以外の場面でも発揮できることを期待しています。</p>

(2) 指導要録

様式1は小中学校用の用紙を使います。様式2は特別支援学校指導要録を参考として、特別の教育課程を編成している場合は特別支援学校用の用紙を使用したり、小中学校用の用紙を使用したりします。作成には「Te-Comp@ss」を使います。

① 様式1（学籍に関する記録）における留意点

② 様式2（指導に関する記録）における留意点

学籍の記録					
児童	ふりがな氏名	性別	入学・編入学等	令和年月日第1学年入学 第学年編入学	
		平成年月日生			
現住所			転入学	令和3年4月5日第2学年転入学 千葉市立〇〇小学校 千葉市△△区□□1-1-1 転居と特別支援学級入級のため	
保護者	ふりがな氏名	年 月 日			
		日			

ア 他校より
 転居を伴わず、通常の学級から特別支援学級へ
 …「特別支援学級入級のため」
 転居を伴い、通常の学級から特別支援学級へ
 …「転居と特別支援学級入級のため」
 転居を伴い、特別支援学級から特別支援学級へ
 …「転居のため」
 イ 自校より
 通常の学級からの転級
 …「特別支援学級入級 措置換えのため」と記入します。

学習活動における児童の学習状況や道徳性にかかわる成長の様子を個人内評価として文章で端的に記入します。

「各教科・特別活動・自立活動の記録」「行動の記録」を踏まえ、総合所見や、指導上参考となることを一括して記入します。

各教科・特別活動・自立活動の記録						
学年 教科等	1	3	4	5	6	
生活	登校後の流れが理解でき、自分から朝支度ができるようになった。					
国語	楽しみながら劇活動をし、物語の内容を理解することができた。					
算数						
特別の教科道徳						
学習状況及び道徳性に係る成長の様子						
第1学年						
第4学年						
第5学年						
第6学年						
の記録						入学時の障害の状態
第4学年						
第5学年						
第6学年						
総合所見及び指導上参考となる諸事項						

・通知表より各教科ごとに、児童生徒の年間の主たる変容(できるだけその児童の成長した面や頑張った事柄)について記入します。
 ・特別活動の欄には「委員会・クラブ活動」「係活動」「交流活動」等について記入します。

当該学年において、その当初と学年末とを比較し変化が見られた行動の状況などを記入します。

特別支援学級へ入級する根拠となる障害名について記載する。(例：知的障害特別支援学級→知的障害)

2 教科用図書（教科書）

特別の教育課程を編成している特別支援学級では、児童生徒の実態から文部科学省の検定を経た教科書又は著作の名義を有する教科書以外の教科用図書を使用することができます。

(1) 選択できる教科用図書

選択できる教科用図書は以下の3種類です。児童生徒の実態に合わせて、各教科で選択することができます。

① 検定教科書(通常の学級で使用している教科書)

文部科学省の検定を経た教科用図書

② 文部科学省著作教科書(☆本とよばれる。)

文部科学省が著作の名義を有する知的障害教育用教科用図書

小学部用	{ 国語☆・国語☆☆・国語☆☆☆ 算数☆・算数☆☆(1)・算数☆☆(2)・算数☆☆☆ 音楽☆・音楽☆☆・音楽☆☆☆ }
中学部用	
{ 国語☆☆☆☆ 数学☆☆☆☆ 音楽☆☆☆☆ }	

③ 学校教育法附則第9条の規定による教科書

絵本などの一般図書の中から選定されます。年によって変更があり、採択された図書の一覧が教育委員会より各学校へ通知されます。

(2) 教科用図書の選択のしかた

アからエで児童生徒に合った教科書を選択します。

ア 検定教科書の 当該学年のもの	イ 検定教科書の 下学年のもの	ウ 文部科学省著作本 (☆本)	エ 附則9条規定の 一般図書
---------------------	--------------------	--------------------	-------------------

【留意事項】

※1教科1冊のみ無償給与

ア～エを併用する場合、教科が重複しないように注意します。通常の学級の授業に参加している場合でも、同じ教科で2冊給与することはできないのでどちらかを選択します。

※1度給付した教科用図書は給与できない

個人の教科書台帳などを作り、過去に何を給与したかわかるようにしておきます。

※転校・転入してきた児童生徒への給与

千葉市で採択されている教科用図書の中から児童生徒に合わせて、教科用図書を給与することができます。通常の学級から同じ学校の特別支援学級に移る場合も転学扱いとし、必要な教科用図書を給与することができます。

※次年度の教科書採択

毎年6～7月頃に教育委員会が「教科書展示会」を開催しており、案内が学校に届きます。検定教科書その他、☆本や附則9条本等も見ることができます。8月初旬から、養護教育センターでも採択された教科書を見ることができます。次年度の選択の参考にするとよいでしょう。☆本や附則9条本については、8月に届け出を出さないと教科書が受けとれないことがあります。

3 特別支援教育就学奨励費・療育手帳・障害福祉サービス

(1) 特別支援教育就学奨励費（学事課 管理係、保健体育課）

この制度は、「特別支援学校への就学奨励に関する法律」の趣旨に基づき、特別支援学校や小中学校の特別支援学級に在籍する児童生徒にかかる教育費の一部を援助、就学にかかる保護者等の経済的負担を軽減、特別支援教育の振興に資することを目的としています。詳しい文書は、市教育委員会より送られてきます。

① 対象

- ア 特別支援学級、特別支援学校の児童生徒の保護者
- イ 弱視、難聴、言語障害等の理由から、障害に応じた特別な指導を受けている児童生徒の保護者
- ウ 県立千葉聾学校通級指導教室で特別の指導を受けている児童生徒の保護者

② 補助対象費

- ア 学用品費
- イ 通学用品費（1年除く）
- ウ 校外活動費（宿泊なし）
- エ 新入学児童生徒学用品費等
- オ 校外活動費（宿泊あり）
- カ 修学旅行費（小6・中3）
- キ 学校給食費
- ク 通学費 ケ 職場実習交通費（中学校のみ）
- コ 交流学习交通費

支給額は、各家庭の収入によって決定されます。

校外活動・修学旅行費については、会計報告をもらっておくとよいです。

学校給食費に関する書類の提出等は、保健体育課です。その他は、学事課管理係です。

③ 仕事の流れ

月	仕事内容
4	通学方法や経路、定期の値段、療育手帳の有無の確認
6	受給関係届等、特別支援教育就学奨励費専用口座 支弁区分の決定について（委員会から送られてきます）
7	千葉銀ファクシミリサービスの登録
9	
10	第1回請求（学事課・保健体育課）精算書
11	
12	第1回分支給（学事課・保健体育課） 学校の専用口座 ⇨ ファクシミリサービスの手続き ⇨ 各家庭 ⇨ 精算書
1	第2回請求（学事課）
2	第2回請求（保健体育課）
3	第2回支給（学事課・保健体育課）、精算書

書類等は、監査対象になるので整備保管しておきます。

卒業生も4月いっぱい、口座をとりないように連絡します。

※ 各家庭への支給の仕方は、ファクシミリサービスの他に現金支給もあります。その場合、支給調書（保護者の受領印）が必要になります。

(2) 療育手帳

療育手帳は、児童相談所または障害者相談センターにおいて知的障害と判定された方に交付される手帳です。各種制度を利用するために必要な手帳です。療育手帳を持っていない保護者には、受けられるサービス等を説明できるとよいです。

①窓口

各区保健福祉センター 高齢障害支援課

②区分

障害の程度によって㊤からBの2まで区分される。

障害程度		障害程度の基準
最重度	㊤	知能指数がおおむね20以下の者で、日常生活において常時の介護を必要とする程度の状態にあるもの
重度	Aの1	知能指数がおおむね21～35以下の者で、日常生活において常時の介護を必要とする程度の状態にあるもの
	Aの2	知能指数がおおむね36～50以下の者で、重複の障害を有し、日常生活において常時の介護を必要とする程度の状態にあるもの
中度	Bの1	上記以外の者で、知能指数がおおむね36～50にあるもの
軽度	Bの2	知能指数がおおむね51～75にあるもの

太線より上が、第1種、下が第2種です。障害の区分により、受けられるサービスが異なります。詳しくは、千葉市発行「障害者福祉の案内」を参照してください。

(3) 障害福祉サービス・受給者証

障害福祉サービスを利用するためには、市町村にサービス利用申請をして審査、判定を受ける必要があります。その結果、障害程度区分が決定され「受給者証」が交付されます。利用者はサービス提供事業者と契約し、サービスの利用が始まります。

①窓口

保健福祉センター 高齢障害支援課

②受けられるサービス等

詳しくは、「障害者福祉の案内」を参照してください。

4 就学支援委員会の上程資料の書き方

児童生徒の学籍を変更するには、千葉市教育委員会教育支援課が行う就学支援委員会に上程し、判断を受ける必要があります。対象となるケースは以下のような場合があります。

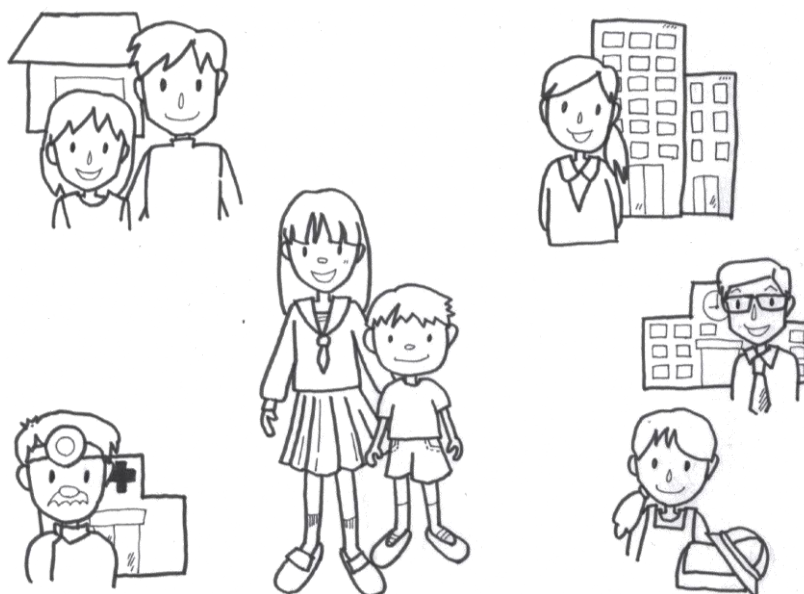
- ・通常の学級、特別支援学級間で在籍が変わる際
- ・小学校特別支援学級へ就学、中学校特別支援学級へ進学する際
- ・通常の学級に籍を置きながら通級指導教室へ通う際
- ・特別支援学校小学部・中学部へ就学、進学する際
- ・特別支援学級、特別支援学校間で転校する際
- ・特別支援学級内で籍を移動する際（知的から自閉症・情緒障害学級等）

就学支援委員会は年に数回行われており、年度初めに千葉市教育委員会教育支援課から年間の開催日の通知があります。

上程するためには、児童生徒の生育・治療・相談歴や諸検査の検査結果、現在の状況などを記入した資料(上程資料)を作成します。特別支援学級に入級することが必要な子供であるか、障害種別（知的または自・情）などが分かる資料を作成します。

 詳しくは P38へ

就学支援委員会で審議された後、「就学支援委員会における判断及び就学措置予定について（通知）」が学校に届いてから、籍を移します。



5 個別の教育支援計画

(1) 個別の教育支援計画と他の支援計画との関係

① 個別の教育支援計画

詳しくは P39・40へ

個別の支援計画と個別の教育支援計画は、概念としては同じものです。個別の支援計画を教育機関が中心となって作成する場合に「個別の教育支援計画」と呼びます。「個別の教育支援計画」は、障害のある児童生徒の一人一人のニーズを正確に把握し、教育の視点から適切に対応するという考えのもと、長期的な視点で乳幼児期から学校卒業後までを通じて一貫して的確な教育的支援を行うことを目的に作成される計画を指します。家庭及び地域や医療・福祉・保健・労働等の関係機関との連携を図り、長期的な視点で児童生徒への教育的支援を行うために作成します。千葉県では、特別支援学級の子供に対して必ず作成することとなっています。書式は、養護教育センターのホームページや全庁フォルダ等にあります。また、全庁フォルダ（「養護教育センター→個別の教育支援計画」のフォルダ）に、「個別の教育支援計画Q&A」があります。

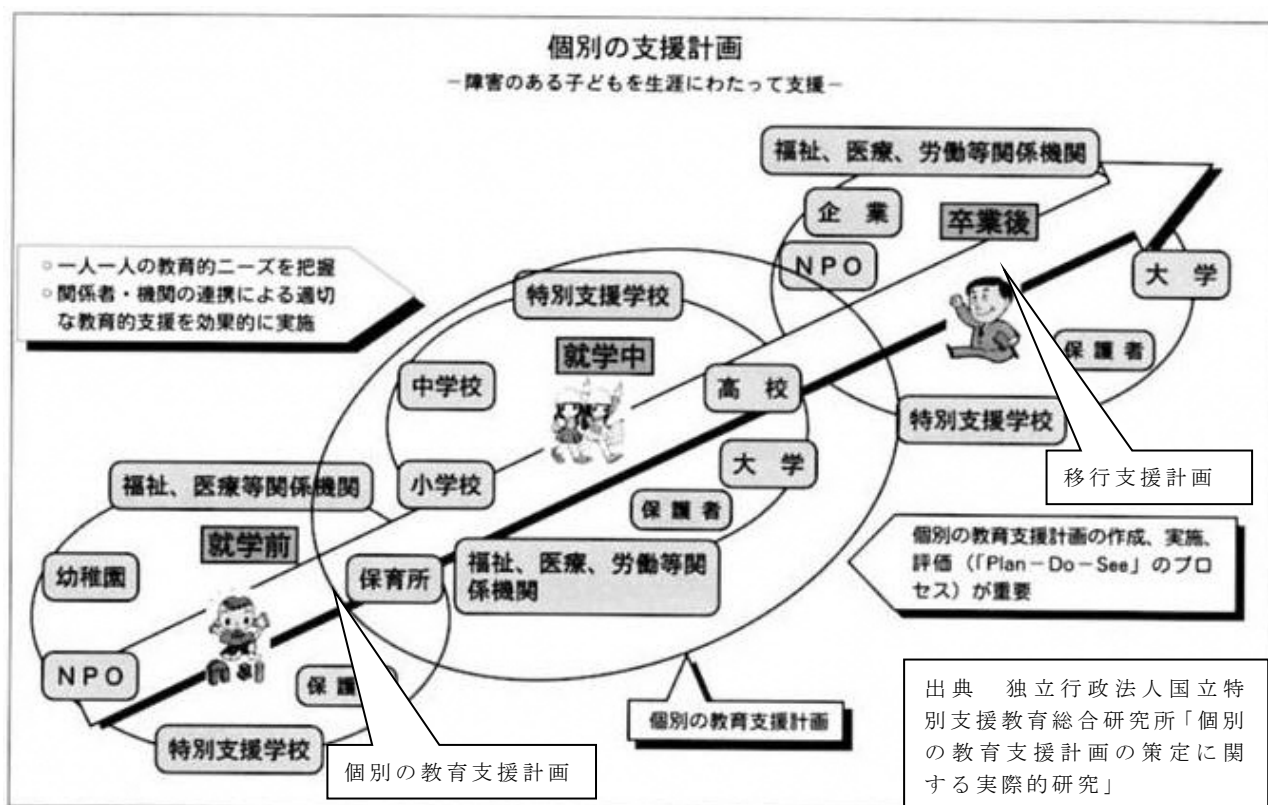
② 個別の移行支援計画

「個別の移行支援計画」は、卒業後の就労・生活支援への円滑な移行を見通し、在学中から関係機関等と連携して一人一人のニーズに応じた支援をするための計画であり、「個別の教育支援計画」の一部です。

③ 個別の指導計画

詳しくは P23へ

「個別の指導計画」は、学校・学級全体の教育課程と関連づけられた、個々の児童生徒の実態や教育的ニーズに合わせて作成された指導プランです。一人一人の指導目標や指導内容・方法の明確化を図るものです。



(2) 個別の教育支援計画の作成手順

- ①障害のある児童生徒の実態・ニーズの把握
- ②実態に応じた教育的支援目標の設定
- ③具体的な支援内容・支援機関（担当者）等の明確化
- ④評価の内容及び時期、関係者の明確化

(3) 個別の教育支援計画の内容

個別の教育支援計画は、以下のような内容を盛り込んだ計画を作成します。

- ①児童生徒の実態と特別な教育的ニーズの内容
- ②適切な教育的支援の目標と内容
- ③教育的支援を行う者・機関等
- ④評価の実施時期・方法・内容・関与する者
- ⑤すでに実施した評価結果と改善内容
- ⑥引継ぎの際の留意事項等

(4) 個別の教育支援計画作成上の留意点

- ①学校所在地または在籍する児童生徒の関係する関係機関や専門家と密接に連携協力することが大切です。
- ②個人情報の保護に十分配慮します。収集した個人情報の保護とともに、「個別の教育支援計画」作成の趣旨や手続きを保護者に説明し進学や転学等に伴って引継ぎが行われることについても理解を求める必要があります。
- ③保護者の積極的な参加を促します。
- ④評価について、実施時期、内容、方法を定めておきます。
- ⑤関係機関とその支援内容がはっきりわかるものにする必要があります。

6 特別支援学級参観・試行通学

(1) 学級参観

学級参観は就学前、中学校進学時など、特別支援学級への入級を検討する際、随時実施されています。保護者には、めざす児童生徒像、学習の内容、特別支援学級での独自の行事などの理解を深めてもらうようにします。

①年長

年長児の小学校特別支援学級の参観は、養護教育センター（相談に行っている児童生徒）を通して申し込まれます。養護教育センターから参観依頼が届いたら、保護者へ速やかに連絡をし、日時を決めるようにします。

②6年生（特別支援学級及び通常の学級から中学校特別支援学級へ進学）

6年生の中学校特別支援学級の参観は、保護者や本人、教職員を対象に、6、7月に参観日を設けています。5月頃、各小学校に案内が配付されます。また、特別支援学校では年間数回、児童生徒・保護者・教職員を対象に、オープンスクール（学校参観および体験学習）が実施されています。これも5月頃に案内が配付されます。

(2) 試行通学

試行通学（入級）は、通常の学級に在籍している児童生徒で、本人及び保護者が特別支援学級に入級をすることを決めた際に、試行的に特別支援学級で生活し、適応状況をみるものです。

在籍校に特別支援学級が設置されている場合は、校内で試行入級をします。

在籍校に特別支援学級が設置されていない場合は、保護者の申請（近隣校の特別支援学級への試行通学の希望）が教育支援課に受理された後、おおむね2週間の試行通学（入級）が開始されます。受け入れ側の特別支援学級担任は、試行通学（入級）中の当該児童の様子を十分に観察・把握して、学級に適応できるかを見極めましょう。

連絡帳（例） 小学校編

小学校①

月 日 ()	就寝 :	起床 :	体調					
家庭から								
* A~Eの欄には担任名が入ります								
			<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> <td>E</td> </tr> </table>	A	B	C	D	E
A	B	C	D	E				
学校から								

小学校②

月 日 ()	就寝 :	起床 :	体調					
家庭から		学校から						
		<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> <td>E</td> </tr> </table>		A	B	C	D	E
A	B	C	D	E				
<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> <td>E</td> </tr> </table>		A	B	C	D	E	特記事項・諸連絡	
A	B	C	D	E				

連絡帳（例） 中学校編

月 日 ()		健康状態	良	悪
		その他 ()		
明日の予定	教科		持ち物	
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	下校時間			
日記				
学校から		家庭から		

就学支援委員会の審議日を記入

A3にコピーして提出する。



就学支援委員会上程資料

(知的障害・自閉症・情緒障害等)
調査員、養護教育センター指導主事の名前
(特学6年生のみ担任でも可)

No.	No.は記入しない
記入	令和3年5月 日
上程	令和3年5月14日
上程者	

フリガナ 氏名		男 女	保護者氏名
生年月日	平成 年 月 日生		就学の際の本来の居住地の学校区 小6→中1の際は、中学校区を記入 TEL ()

住所	〒 千葉市 区	愛称(例:ひまわり)ではなく、通常、知的、自・情を記入	学区)
在籍園 在校園	現在通っている学校	在校学年 (学級)	担任氏名 過 年 年

生育・治療・相談歴	妊娠中の母体の異常	無・有 ある場合は記入	生下時 体重 g
	出産時の異常	無・有 ある場合は記入	例) ○○病院 千葉市療育センター 千葉市児童相談所など ※療育手帳の交付を受けている場合は必ず記入すること
	医師診断名	上程にかかわる診断名	医療機関名

- 例) 重度知的障害
- 軽度知的障害
- 広汎性発達障害
- 自閉スペクトラム症

病気・けが・発作等の治療や相談、訓練を受けた時期、場所及び内容等の概況

- ・上記以外に診断された病名については、この欄に記入する。自・情を希望する場合は、医療機関の診断等(養セの医療相談の結果)が必要になる。
- ・養護教育センターや相談機関を利用した場合は、この覧に記入する。
- ・転校や転級についても記入する(教育歴)。
- ・校内での本人への支援体制や状況について記載する。
- ・中学校からの特別支援学校への進学、または知的障害学級から自閉症・情緒学級への措置替えを希望する場合は、特別支援学級入級時の就学支援委員会の判断を記入する(以前の「措置通知」を参照、指導要録等と保存。)。不明の場合は、教育支援課に問い合わせ。
- ・手帳を未取得の場合は、保護者の意向で申請しないのか、それとも、申請中(考慮中)等を記載する。

取得していない場合は斜線

手帳	身体障害	種 級	交付	年 月	障害内容
	精神障害者保健福祉		交付	年 月	
	療 育	Bの2	交付	平成30年5月	更新 令和2年5月

家族構成	続柄	氏 名	年齢	職業・在籍学校または園、学年等
	本人			・保護者に聞き取れる範囲で記載する。
	初めて手帳が交付された日			・家族が多い場合は、欄を増やして記載
				最新の更新日 次回の更新予定日は記さない

氏名	評価点を記入する 粗点ではない WISC-IV の場合も下位検査を記入					No.	No.は記入しない
	種類	知能検査			検査		社会生活能力検査
諸検査	名称	*WISC-III	田中ビネーV	グッドイナフ	遠城寺式	S-M式	
	知識 完成				移動運動 ~	身辺自立 _____	
	類似 符号		MA _____	MA _____	手の運動 ~	移 動 _____	
	算数 配列				基本的習慣 ~	作 業 _____	
	単語 積木		CA _____	CA _____	対人関係 ~	コミュニケーション _____	
理解 絵				発 語 ~	集団参加 _____		
[数唱] _____				言語理解 ~	自己統制 _____		
	PIQ _____				聴取 _____	CA _____ SA _____	
	FIQ _____					SQ ()	
	実施	• • (検査場所)	• •	• •	• •	• •	
現在の状況	身辺自立	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援学級を希望する場合は、WISC-IIIまたはWISC-IVを行うこと（田中ビネーは療育手帳の更新等に影響するので、更新前後の1年以内は行わない）。手帳を確認する。わからない場合は支援課に相談する。 S-M社会生活能力検査で、保護者が実施した数値が高すぎる場合は、担任がやりとりをして補正するか、欄外に（ ）で担任の数値を記載する。 上記の発達検査結果等と記述の内容に大きな違いがないかどうかを確認する。 身辺処理（排泄・食事・着替え・洗面等）や身の回りの物の管理、生活面を、具体的に記述する。 					
	学習能力	<ul style="list-style-type: none"> 通常の学級から、または通常の学級へと希望する場合は、学力テストの数値を記載する。また、どういう状況で学力テストを受けていたかも把握しておく（別室で読み上げた等）。ワークテストや定期テストの数値でもよい。 国語の読み書きや読解、算数の計算等を詳細にし、他教科も記述する。 					
	対人関係・情緒	<ul style="list-style-type: none"> 自閉症・情緒障害学級入級希望者は、対人面・行動面・情緒面の問題や傾向、対応の仕方を詳しく記載する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 在学中の児童生徒→この面を学級担任・校長に記載するように依頼。 就学児→サポートシート、来所相談、参観の様子から担当が記載。 </div>					
	身体運動	<ul style="list-style-type: none"> 体力テスト等の数値がわかっている場合は記載する。 					
保護者の希望や意向	<ul style="list-style-type: none"> <u>必ず</u>、本人や保護者の希望や意向を確認して記載する。 						
調査員の所見	<ul style="list-style-type: none"> 調査員として特別支援学級の場合、知的、自・情のいずれが適しているのかについて記入する。「現在の状況」の記載と矛盾がないようにする。 					調査員氏名	
校内委員会の所見	<ul style="list-style-type: none"> 校長に記載するように依頼する。 					学級長 氏名	
市就学支援委員会の答申	判断	通知	自・情	特支校	指導事項	(期限 年間)	
	その他 ()					職印は押さず自署で可能 調査員の私印も同様	

実施日と検査場所を記入

※2つ以上の検査結果が必要
知能検査とS-Mは必須

記入しない枠は斜線を引く

調査員または養護教育センター指導主事、(特学6年生のみ担任でも可)

記入のポイント

保護者の承諾なく、関係機関に提示してはいけません。管理には十分注意する。

個別の教育支援計画

学校名（千葉市立 ○ ○ 小学校）
学校名（千葉市立 中学校）

保護者が記入する。

診断名がはっきりしない場合は書かなくてもよい。「○○疑い」でもよい。

診断またはニーズの高まりに至るまでの経緯を簡潔に書く。

頻繁に見られる苦手さ、困り感を記入する。

更新した場合は適宜書き足したり、削除したりする。

書ける範囲で記入する。

現在一緒に生活している家族について記入する。

療育センターでの指導や民間の個別指導なども記入する。診断をした医師の名前など、担当者名を書くとよい。

連携・連絡を取る必要がある場合には、担当・担任の名前なども書いておくとよい。

氏名	*** **	生年月日	H***年**月**日
氏名	*** ** (続柄 父)	家族状況(ペット等)	*** (父 S***年) ** (母 S***年) *** (姉 H***年) 本人 犬2匹
診断名	自閉スペクトラム症	医療機関名	○○病院
診断に至るまでの経過	○頃から不器用な様子があった。小学校に入っ てからパニックを起こすことが多く、病院を受診	現在までの治療・相談歴・診断日	H27.12 保健所に運動のことを相談(担当 ○) H30.7 ○○病院を受診 服薬(担当 ○○) H30.8 養護教育センターに相談(担当 ○○)
特に本人が困っていること	書くことが苦手。 繰り返し同じことをするのが苦痛。 パニックを起こすこと。		
療育手帳	有・無 等級 手帳番号		
身体障害者手帳	有・無 等級 手帳番号	年 月 日更新	
精神障害者保健福祉手帳	有・無 等級 手帳番号	年 月 日交付	
受給者証	有・無	番号	
給付金	有・無	番号	
アレルギー	・WISC-IV (FSIQ ** VCI ** PRI ** PSI **) H30.10 養護教育センターにて ・頓服薬(薬の名前) ○○病院 ・ ・		
生育歴	・地下歩行量(****回) ・音のずわり(歳 ヶ月) ・一人歩き(歳 ヶ月) ・発 語(歳 ヶ月) ・視線(合う・ <u>合わない</u>) ・抱きし(有・無) ・見知り(有・無) ・場所見知り(有・無)		
療育・保育・教育歴	H26.4 △△△保育所 H30.4 ○○小学校 1-1 担任 **** * 2-1 担任 **** * 3-1 担任 ** ***		
備考	保育所の頃から運動にぎこちなさがあった。 場所見知りがあり、初めての場所だと泣いたり 逃げ出したりしていた。		

《Check Point!!》

- 個別の教育支援計画の様式は、A3 見開きに印刷して活用します。その際、表紙にプロフィールの様式、内側見開きに教育支援方針・関係機関の書かれた表と合理的配慮の記載、裏表紙にはメモ欄がくるようにします。
- 表紙の記載は、保護者の同意が必要です。
- 全てを一度に書き込む必要はありません。空欄があってもよいです。
- 診断名がない場合は、本人の困り感を書く欄に具体的に記述するようにしましょう。

氏名	<本人> 決めたことは最後までやる。 お話作りが好き。	<保護者> 難しい内容の本でも、一度関心をもつたら読むも 読んでいる。理解もしている。
	<本人> 漢字ドリルや計算問題など同じことを繰り返すと 疲れる。繰り返しの多い課題はやりたくない。 リラックスする時間がほしい。	<保護者> 家でのパニック（1時間）が週に4回ある。 気持ちを落ち着けて、無理なく学習に参加してほ しい。
<総合的な支援方針> 疲労感を和らげるための配慮を行い、学習への参加を高めるとともに、家庭での安定 を図る。そのためにも、自分で状況を伝える力を身に付けさせたい。	<支援の実施し> <input checked="" type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> その他	
<目標> 自分のペースを知り、無理のない学習参加ができる。	パニックになる前に、宿題の量を調整する。	
養護教育センター TEL*** 学校生活について相談。担当	家庭での様子や取り組みに ついて記入する。	年齢や状況に応じて どの程度のスパンが 適切か検討する。
習い事や塾または特徴的な 生活について記入する。	○○病院 月に1回通院。TEL***-**** パニックを抑えるための頓服薬をもらう。(薬の名前) 担当は○○。	主な相談内容をまとめる。 服薬の状況、目的なども 記入する。
決めたことは最後までやる。 お話作りが好き。	放課後等支援、福祉的サービス などを記入する。	策定した際に確認し、同意 する場合には保護者が署名する。

【個人情報の取り扱いについて】
 1 関係者以外が閲覧できないようファイル管理を厳正に行う。
 2 本計画を策定した機関が、別の機関に本計画を提示する場合は、
 3 2において本計画の提示を受けた機関は、その情報を提示目的以外に使用してはならない。
 ※ 本計画の内容に同意し、関係機関等に情報共有することを承諾します。

保護者 署名	H30年度 (** * ** *) ** * ** *	R元年度 (** * ** *) ** * ** *	R2年度 (** * ** *) ** * ** *
	年度 ()	年度 ()	年度 ()

本人自身が捉えている内容をまとめ、記入する。

本人の肯定的側面の理解や支援の手がかりとして活用できる内容を記入する。

保護者が考える本人の興味関心や魅力を記入する。

本人や保護者の願いを受けて、学校側の視点も加え支援方針をまとめる。

本人の願う生活に近付くための目標にする。

習い事や塾または特徴的な生活について記入する。

内容が変わったら、適宜修正する。

家庭での様子や取り組みについて記入する。

年齢や状況に応じてどの程度のスパンが適切か検討する。

主な相談内容をまとめる。服薬の状況、目的なども記入する。

放課後等支援、福祉的サービスなどを記入する。

策定した際に確認し、同意する場合には保護者が署名する。

面談時に確認した内容を学校の担当者が記入する。

《Check Point!!》

- 総合的な支援方針が決まるまで、保護者と面談を繰り返したり、本人とどんな配慮がよい状態につながるのかを検討したりする過程が重要です。焦らずに合意形成を行います。
- より具体的な方針、手立てや長期・短期目標については、個別の指導計画に記載します。
- 関係諸機関の情報は変更があったら適宜修正します。赤で修正するとわかりやすくなります。
- 関係諸機関との連携が大切です。情報共有することを保護者が同意した場合、必要に応じて情報を共有し、本人にとってよりよい方法を考えていきます。

配慮が必要な状況、支援の方針を記述する。

学年が変わった時に新規作成し、貼り付ける。

優先順位は、1、2、3...などの数字や高い、低い、時々などの言葉で示すとよい。

具体的な配慮事項を記述する。3観点11項目における位置付けも書く。

策定日は、総合的な支援の方針に基づいた合理的配慮に同意を得た日。見直し日は年度内に位置付ける。

見直し日や総合評価日にまとめる。有効性や継続の必要性、経過などを書く。その際、必ず日付を書く。

策定メンバーの合意を得た内容を学校の担当者が記入する。

観点	配慮が必要な状況・実態	配慮すべき事項（3観点11項目を参照）	実施状況
1	変れると学習に集中できず、疲労がたまると家でパニックを起こす。学校での疲労を少なくする必要がある。	・クールダウンをする機会の提供。 (①-2-3 心理・健康面の配慮)	・非常に有効。本人も継続を希望している。 (12/10) ・自分の状態を担当に伝えることができるようになってきた。 (3/7)
	漢字練習やドリルなど同じことを繰り返す課題で疲労しやすい。注意が持続できる量の調整が必要である。	(①-1-2 学習内容の変更・調整)	・量を減らすことで、学習意欲が高まってきている。 (12/10) 通常の量もこなせるようになってきた。継続する。 (3/7)
3	書くことなどの苦手な部分における指導が必要。	・LD 等適級指導教室に通級し、週1回の個別指導を受ける。 (②-1 専門性のある指導体制の整備)	・今後も継続する。 (3/7)

策定日	R2年 5月 14日(木)	見直し日	R2年 12月 15日(火)
-----	---------------	------	----------------

総合評価

自身の安心感につながっていることから、今後も継続する。課題の量については、徐々にようになってきているので、本人と適宜相談し合いながら、配慮の程度を検討していく

評価者署名: *****

以上の内容に同意します。(自署)

R3年3月10日 本人氏名 ***** 保護者氏名 *****

(***) (***)

担任氏名 ***** 学校長名 *****

本人の自署は実態に応じて求める。保護者代筆可。署名後にコピーし、保護者に渡す。

成果や課題を整理し、継続事項や再検討事項を明確にする。最後に、評価を行ったメンバーで署名し、まとめとする。引継ぎにも活用。

《Check Point!!》

- 年度が変わり新たに作成する際には、追加の必要がある分だけ書き込み、同じ内容は「昨年度と同様」と書くといいでしょ。ただし、合理的配慮の提供までに、改めて合意形成を行う必要がある場合があります。
- 4ページ目のメモ欄は、必要に応じて自由に活用するためのものです。
- 本人が将来的に、学校以外の場でも、自分から申し出ができるようになることが大切です。環境調整だけでなく、自己理解を育むことも重要です。

校長先生・教頭先生にお願いしたいこと

○こんなことはありませんか？

- ・職員会議等、提案の中に特別支援学級（以下、支援級）の子供や担任の名前が入っていない。
- ・通常の学級との交流で、グループ名簿に支援級の子供の名前が入っていない。
机を用意していない。
- ・教材注文等の情報が支援級に届いていない。
- ・通常の学級で配付されている手紙（学年だより等）が支援級に配られていない。
- ・教室が通常の学級から離れていて、互いに様子が伝わりにくい。職員間でも支援級の子供たちについて話題にならない。子供の名前を覚えられていない。
- ・期限付き入級について、校内で周知されていない。
- ・支援級担任（特に一人の場合）が孤立している様子がある。

○支援級担任も自分から発信することが必要です。

- ・学級だよりや週予定表を、全学級に配付したり掲示したりする。
- ・知っておいてもらいたいこと（特に児童生徒について〈例：問題となる行動・期限付き入級の周知・交流の方法等〉）は、打合せ等で伝える。
- ・学年主任や交流学級の担任に、学習内容や学習に関わるグループ編成、教材注文等について確認する。
- ・集会や行事で、学習の成果を発表する。
- ・学習の様子を写真で紹介したり、図工（美術）・書写の作品、作文等を掲示したりして、学級の様子を紹介する。

○校長先生・教頭先生、ぜひお願いします。

- ・支援級が孤立しないよう、支援級担任への指導（発信の仕方等）や通常の学級担任への指導（常に支援級の存在を念頭においてほしいこと等）をお願いします。
- ・職員会議や打合せ等で支援級の話をしたり、学校だより等に掲載したりするようお願いします。
- ・措置通知で期限付き入級（ハンドブックP21参照）かどうかの確認をお願いします。期限付き入級の場合は、入級期間中の目標や見通しについて、担任からの聞き取りや指導をお願いします。
- ・通常の学級と支援級の子供たち同士の関わりをもちやすいよう、支援級教室の配置や職員室の配置等の配慮をお願いします。
- ・年長児の支援級参観の際には、その子供の様子を見ていただくようお願いします。

※「特別支援学級担任のためのハンドブック」は、下記に入っています。

CHAINS 全庁フォルダ「教育委員会事務局→養護教育センター→R3 特別支援学級担任のためのハンドブック」

<引用文献・参考文献>

「障害者福祉のあんない」 千葉市 令和3年4月

「特別支援学級担任のためのハンドブック」千葉市養護教育センター 平成22年3月

<研究協力委員>

<講師>

千葉市立院内小学校長	谷 直樹
千葉市立幕張西中学校教頭	大日方 一

<研究協力委員>

千葉市立幕張小学校教諭	武安 博美
千葉市立松ヶ丘小学校教諭	村尾 香
千葉市立打瀬小学校教諭	瀬戸 弘樹
千葉市立千城台わかば小学校教諭	西田 いずみ
千葉市立おゆみ野南中学校	片田 郁代
千葉市立星久喜中学校教諭	谷 麻紗美
千葉市立花見川中学校教諭	芝崎 恵美
千葉市立誉田中学校教諭	前田 操

令和3年度

特別支援学級担任のためのハンドブック

発行日 令和4年3月31日

発行者 千葉市養護教育センター

所長 久保木 修

〒261-0003 千葉市美浜区高浜3-2-3

TEL 043-277-0101

FAX 043-277-1852